

令和 5年度 管理事業評価調書(5年度対象)

事業コード	6010	事業名	教育委員会運営事業			
所属名	教育委員会事務局総務課	評価責任者	総務課長 高木 健一			
		作成責任者	有田 裕紀	ダイヤルイン	052-954-6757	
政策名	教育行政の円滑な運営		施策名	教育委員会及び事務局の適正な管理運営		
事業目的	教育委員会会議の運営や重要施策の企画・立案・調整及び人事・予算等、総括的な事務を行い、教育行政の円滑な運営を図る					
根拠法令・計画等	愛知県教育委員会会議規則、地方教育行政の組織並びに運営に関する法律、愛知県教育表彰規則他					
従事人員・経費等	区 分		予算額		決算額(C/F)	
			5年度(当初)	4年度(当初)	4年度	3年度
	従事人員	正規職員(うち地方機関分)	122.90人 (0人)	122.40人 (0人)	122.40人 (0人)	123.60人 (0人)
		非常勤職員(うち地方機関分)	2.80人 (0人)	2.80人 (0人)	2.80人 (0人)	3.60人 (0人)
	経費	人件費(a)	1,206,949 千円	1,236,226 千円	1,191,693 千円	1,208,822 千円
		事業費(b)	7,242,508 千円	98,630 千円	83,275 千円	135,225 千円
		公債費(c)	2,320 千円	2,320 千円	2,320 千円	2,321 千円
		計(a)+(b)+(c)	8,451,777 千円	1,337,176 千円	1,277,289 千円	1,346,368 千円
収入のうち、受益者負担額 (分担金・負担金、使用料・手数料)		0 千円	0 千円	1 千円	1 千円	
経費のうち、一般財源等		8,041,058 千円	930,163 千円	777,556 千円	855,940 千円	
事業計画の内容及び事業費の内訳	<p>職員の給与、市町村教育委員会に派遣する指導主事にかかる経費の県負担分を含むほか、教育委員会の運営、教育委員会会議の開催、教育の振興に貢献し功績顕著な者等への表彰などを行う。</p> <p>1 教育表彰費:1,274千円 2 運営費:73,014千円(うち教育委員会運営費52,062千円) 3 学校業務改善推進事業費:6,156千円 4 退職手当平準化基金積立金:7,162,064千円</p>					
評価	指標／目標値等	指標(指標によっては算式／解説)	目標年度	目標値	実績値・見込	
		1	教育表彰、児童生徒表彰、教育功労者表彰における表彰人数	最終目標		1,301人
				5年度	1,301人	1,301人 (見込)
				4年度	1,403人	1,350人 (実績)
				最終目標		—
		2	県民当たりコスト (PL経常費用/本県人口)	5年度	—	— (見込)
				4年度	—	165円 (実績)
		3		最終目標		
				5年度		(見込)
		4		最終目標		
	5年度				(見込)	
	5		最終目標			
			5年度		(見込)	
			4年度		(実績)	
			4年度		(実績)	
外部要因等	なし					
目的の達成に関する評価	C:相当程度進展あり (判断の理由) ◎主要な指標:1(理由:管理事業全体の達成度を評価するのにもっとも適しているため) ・教育行政の円滑な運営を行ったため、管理事業全体としては、おおむね達成することができた。 ・教育表彰費については、本県教育のために貢献した功績が特に顕著な者や展覧会等で優秀な成績を収めた児童生徒等の表彰を行ったが、表彰人数の目標値は下回った。					
コスト指標の増減分析	4年度の県民当たりコストは、補助金等の減により、3年度166円に比べ1円減少した。					
課題	表彰については、受賞者等の内面によるところが大きく、評価することが困難であるが、該当者に適切に表彰を行いながらも、可能な限り歳出額を抑える必要がある。					
今後の方向性	より効果的な執行による事務費の縮減を行う。					

*「決算額(C/F)」については、表示単位未満の金額を四捨五入しているため、「経費」の内訳の合計と「計」欄が一致しない場合があります。

令和 5年度 管理事業評価調書(5年度対象)

事業コード	6020	事業名	教育総務事業				
所属名	教育委員会事務局総務課	評価責任者	総務課長 高木 健一				
		作成責任者	三輪 俊介	ダイヤルイン	052-954-6757		
政策名	教育行政の円滑な運営		施策名	教育事務所の円滑な運営及び教育行政の拡充			
事業目的	教育にかかる広報・広聴や市町村教育委員会の指導等の業務を行い、県の教育施策を円滑に進める						
根拠法令・計画等	愛知県教育委員会事務局組織規則、愛知県情報公開条例、行政資料の収集及び閲覧に関する規定他						
従事人員・経費等	区分	予算額		決算額(C/F)			
		5年度(当初)	4年度(当初)	4年度	3年度		
	従事人員	正規職員(うち地方機関分)	101.70人 (82人)	102.10人 (82人)	102.10人 (82人)	102.90人 (82人)	
		非常勤職員(うち地方機関分)	14.20人 (13人)	14.20人 (13人)	14.20人 (13人)	14.40人 (13人)	
	経費	人件費(a)	1,048,027 千円	1,040,926 千円	1,007,803 千円	1,000,014 千円	
		事業費(b)	980,747 千円	816,718 千円	821,701 千円	1,256,844 千円	
		公債費(c)	31,734 千円	31,742 千円	31,746 千円	30,724 千円	
		計(a)+(b)+(c)	2,060,508 千円	1,889,386 千円	1,861,250 千円	2,287,582 千円	
収入のうち、受益者負担額(分担金・負担金、使用料・手数料)		0 千円	0 千円	0 千円	0 千円		
経費のうち、一般財源等		1,994,129 千円	1,785,988 千円	1,741,271 千円	1,550,490 千円		
事業計画の内容及び事業費の内訳	<p>教育事務所や関係団体への補助金交付など教育委員会の地方機関等の運営を行う。 また、保護者向け広報紙の発行や公立学校の施設整備に対する指導等を行う。</p> <p>1 教育事務所費:12,337千円 2 教育広報費:6,415千円 3 教育情報通信ネットワーク運営費:553,791千円 4 情報通信技術支援員配置事業費:49,543千円 5 県立学校オンライン学習支援事業費:7,436千円 6 杉原千畝顕彰事業費:354千円 7 東三河小中高特連携教育推進事業費:1,012千円 8 愛知県教育・スポーツ振興財団運営費補助金:266,122千円 9 公立文教施設整備指導事務費:2,766千円 10 名古屋市立若宮高等特別支援学校施設整備費補助金:80,971千円</p>						
評価	指標／目標値等	指標(指標によっては算式／解説)	目標年度	目標値	実績値・見込		
		1	記者発表資料の新聞掲載率(新聞掲載件数/発表件数)	最終目標	70.00%		
			5年度	70.00%	70.00%	(見込)	
			4年度	70.00%	34.80%	(実績)	
		2	教育委員会ウェブページ(トップページ)のアクセス件数	最終目標	前年度を上回る		
				5年度	前年度以上	270,000件	(見込)
				4年度	231,516件	260,990件	(実績)
		3	エースネットの稼働率(稼働日数/稼働計画日数)	最終目標	100%		
				5年度	100%	100%	(見込)
				4年度	100%	100%	(実績)
	4	県民当たりコスト(PL経常費用/本県人口)	最終目標	-			
			5年度	-	-	(見込)	
			4年度	-	237円	(実績)	
	5		最終目標				
			5年度			(見込)	
4年度					(実績)		
外部要因等	なし						
目的の達成に関する評価	D:進展が大きくない(判断の理由) ◎主要な指標:1(理由:県民の教育施策について県民が情報を得る機会の指標であるため) ・管理事業全体としては、教育事務所や関係団体等の運営、オンライン学習の環境整備を適切に行うことができた。 ・新聞掲載率は目標値を下回ったが、ウェブページのアクセス件数は目標値である前年度を上回ることができた。						
コスト指標の増減分析	4年度の県民あたりコストは、県立学校オンライン学習支援事業費の減により、3年度304円に比べ67円減少した。						
課題	新聞掲載率は、受動的な要素も多いが、引き続き県民が情報を得る機会を提供しながらも、可能な限り歳出額を抑える必要がある。						
今後の方向性	対象者のニーズを的確に捉え、県の教育施策についての情報を発信していく。インターネット等を活用した広報のあり方や県立学校のネットワーク整備に対する指導等、効率的な執行を行っていく。						

*「決算額(C/F)」については、表示単位未満の金額を四捨五入しているため、「経費」の内訳の合計と「計」欄が一致しない場合があります。

令和 5年度 管理事業評価調書(5年度対象)

事業コード	6030	事業名	教職員福利厚生事業			
所属名	教育委員会事務局福利課	評価責任者	福利課長 大谷 健二			
		作成責任者	出口 勝太	ダイヤルイン	052-954-6773	
政策名	教育行政の円滑な運営		施策名	教職員が職務に精励できる体制を構築するための福利厚生の確保		
事業目的	教職員の福利厚生を行うことにより、教職員が勤務に精励できる体制を構築する。					
根拠法令・計画等	地方公務員災害補償法、議会の議員その他非常勤の職員の公務災害補償に関する条例、地方公務員等共済組合法等					
従事人員・経費等	区分	予算額		決算額(C/F)		
		5年度(当初)	4年度(当初)	4年度	3年度	
	従事人員	正規職員(うち地方機関分)	6.40人(0人)	6.40人(0人)	6.40人(0人)	6.40人(0人)
		非常勤職員(うち地方機関分)	2人(0人)	2人(0人)	2人(0人)	2人(0人)
	経費	人件費(a)	67,468千円	69,330千円	66,891千円	66,002千円
		事業費(b)	10,033千円	0千円	0千円	2千円
		公債費(c)	2,866千円	3,330千円	3,330千円	3,335千円
		計(a)+(b)+(c)	80,367千円	72,660千円	70,221千円	69,339千円
	収入のうち、受益者負担額(分担金・負担金、使用料・手数料)		0千円	0千円	0千円	0千円
	経費のうち、一般財源等		△79,903千円	△46,033千円	70,194千円	69,298千円
事業計画の内容及び事業費の内訳	教職員の福利厚生を行うことにより、教職員が勤務に精励できる体制を構築する。 1 公務災害補償費:289,410千円(地方公務員災害補償基金負担金288,710千円) 2 公立学校共済組合負担金:56,422,312千円(公立学校共済組合負担金56,422,312千円) 3 会計年度任用教職員社会保険加入費:2,579,006千円(会計年度任用教職員社会保険加入費2,579,006千円) 4 教職員福利厚生施設建物取壊費:10,033千円(教職員福利厚生施設建物取壊設計費8,206千円)					
評価	指標／目標値等	指標(指標によっては算式/解説)	目標年度	目標値	実績値・見込	
		1	非常勤職員の公務災害認定に要した日数	最終目標	60日以内	
				5年度	60日以内	60日以内 (見込)
				4年度	60日以内	—(認定なし) (実績)
		2	公務災害の審査機関への提出に要した日数	最終目標	30日以内	
				5年度	30日以内	30日以内 (見込)
				4年度	30日以内	2日 (実績)
		3	県民当たりコスト(PL経常費用/本県人口)	最終目標	—	
				5年度	—	— (見込)
				4年度	—	14円 (実績)
		4		最終目標		
				5年度		(見込)
				4年度		(実績)
		5		最終目標		
				5年度		(見込)
4年度				(実績)		
外部要因等	なし					
目的の達成に関する評価	A:目標超過達成(判断の理由) ◎主要な指標:2(理由:管理事業において達成度を判断する主な事業であるため) ・管理事業全体として、主要な指標は目標を上回って達成し、適切に事務を遂行することができた。					
コスト指標の増減分析	4年度の県民当たりコストは、公立学校共済組合負担金の増等により、3年度12円に比べ2円増加した。					
課題	非常勤職員の公務災害における認定事務について、迅速に手続きを行う必要がある。					
今後の方向性	今後も、公務災害に係る事務の適正な管理運営に努める。					

*「決算額(C/F)」については、表示単位未満の金額を四捨五入しているため、「経費」の内訳の合計と「計」欄が一致しない場合があります。

令和 5年度 管理事業評価調書(5年度対象)

事業コード	6040	事業名	教職員人事管理事業			
所属名	教育委員会事務局教職員課	評価責任者	教職員課長 長坂 昌彦			
		作成責任者	小林 優紀	ダイヤルイン	052-954-6768	
政策名	教育行政の円滑な運営		施策名	教職員人事事務の円滑な執行		
事業目的	教職員の採用業務、給与支給業務及び教職員の免許管理事務を行う					
根拠法令・計画等	学校教育法7条、教育公務員特例法第11条、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第21条、第37条及び第44条等					
従事人員・経費等	区分	予算額		決算額(C/F)		
		5年度(当初)	4年度(当初)	4年度	3年度	
	従事人員	正規職員(うち地方機関分)	34.10人 (0人)	34.10人 (0人)	34.10人 (0人)	35.10人 (0人)
		非常勤職員(うち地方機関分)	11人 (0人)	11人 (0人)	11人 (0人)	10人 (0人)
	経費	人件費(a)	365,317 千円	375,749 千円	370,850 千円	376,847 千円
		事業費(b)	157,128 千円	155,238 千円	138,761 千円	128,241 千円
		公債費(c)	0 千円	0 千円	0 千円	0 千円
		計(a)+(b)+(c)	522,445 千円	530,987 千円	509,610 千円	505,088 千円
	収入のうち、受益者負担額(分担金・負担金、使用料・手数料)		39,598 千円	61,221 千円	43,491 千円	66,693 千円
経費のうち、一般財源等		482,847 千円	469,766 千円	465,975 千円	438,292 千円	
事業計画の内容及び事業費の内訳	<p>教職員の採用業務、給与支給業務及び教職員の免許管理業務等を行う。</p> <p>1 選考試験費:14,697千円(選考試験費14,697千円)</p> <p>2 教職員管理費:13,552千円(人事管理費1,687千円、信頼される学校づくり推進費3,341千円)</p> <p>3 給与事務費:109,319千円(市町村立学校ネットワーク運営費99,929千円)</p> <p>4 教員免許事務費:15,172千円(教員免許事務費15,172千円)</p> <p>5 認定講習費:4,388千円(1種免許状取得講座開設費4,388千円)</p>					
評価	指標／目標値等	指標(指標によっては算式/解説)	目標年度	目標値	実績値・見込	
		1	志願者倍率(倍)(志願者総数/採用予定者数)	最終目標	前年度を上回る	
				5年度	前年度を上回る	3.8倍 (見込)
				4年度	前年度を上回る	3.7倍 (実績)
		2	上位免許状等取得に有効な単位の修得率(単位修得者数/受講者数)	最終目標	100%	
				5年度	100%	100% (見込)
				4年度	100%	100% (実績)
		3	管理的地位にある教職員に占める女性教職員数の割合	最終目標	30%以上	
				5年度	30%以上	28.40% (見込)
				4年度	30%以上	25.90% (実績)
		4	全額口座振込による給与支給率(全額口座振込者数/総教員数)	最終目標	100%	
				5年度	100%	99.70% (見込)
				4年度	100%	99.70% (実績)
		5	県民当たりコスト(PL経常費用/本県人口)	最終目標	-	
				5年度	-	- (見込)
4年度	-			65円 (実績)		
外部要因等	新型コロナウイルス感染拡大防止のため、県外での教員採用選考試験の説明会を中止した。					
目的の達成に関する評価	C:相当程度進展あり(判断の理由) ◎主要な指標:1(理由:優秀な教員を採用するには、一定の志願者倍率が必要であると考えられるため) ・事務の簡素化を図ることで、管理事業を全体として効率的な執行を図ることができた。 ・前年度より志願者数は減少したが、採用予定者数も減少したため、志願者倍率が前年度より増加した。					
コスト指標の増減分析	4年度の県民当たりコストは、事業費が増加したこと等により、3年度の63円に比べ2円増加した。					
課題	教員採用選考試験について、優秀な教員をより多く採用するため、今後も志願者数の増に努めていく必要がある。					
今後の方向性	学校における働き方改革を推進するとともに、教職の魅力を発信し、志願者数の確保に努める。					

*「決算額(C/F)」については、表示単位未満の金額を四捨五入しているため、「経費」の内訳の合計と「計」欄が一致しない場合があります。

令和 5年度 管理事業評価調書(5年度対象)

事業コード	6050	事業名	教職員研修事業			
所属名	教育委員会事務局義務教育課	評価責任者	義務教育課長 水谷 政名			
		作成責任者	安井 靖弘	ダイヤルイン	052-954-6789	
政策名	児童生徒の健全育成と学習支援の充実		施策名	教職員の資質の向上		
事業目的	新規採用職員及び教職員に対して研修を計画・組織的に行う					
根拠法令・計画等	地方公務員法第39条、教育公務員特例法第23、24条、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第48条					
従事人員・経費等	区分	予算額		決算額(C/F)		
		5年度(当初)	4年度(当初)	4年度	3年度	
	従事人員	正規職員(うち地方機関分)	5.20人(0人)	5.20人(0人)	5.20人(0人)	5.20人(0人)
		非常勤職員(うち地方機関分)	0人(0人)	0人(0人)	0人(0人)	0人(0人)
	経費	人件費(a)	53,616千円	55,214千円	70,237千円	57,360千円
		事業費(b)	15,371千円	15,359千円	9,546千円	8,169千円
		公債費(c)	0千円	0千円	0千円	0千円
		計(a)+(b)+(c)	68,987千円	70,573千円	79,782千円	65,529千円
収入のうち、受益者負担額(分担金・負担金、使用料・手数料)		0千円	0千円	0千円	0千円	
経費のうち、一般財源等		68,987千円	70,573千円	79,718千円	65,481千円	
事業計画の内容及び事業費の内訳	<p>教職員及び新規採用教員に対して研修を計画的・組織的に行う。</p> <p>1 幼・小・中学校教職員研修費:3,061千円(中堅教諭等資質向上研修費2,243千円)</p> <p>2 高等学校教職員研修費:2,224千円(教職員研修費1,961千円)</p> <p>3 特別支援学校教職員研修費:857千円(中堅教諭等資質向上研修費857千円)</p> <p>4 初任者研修費:9,229千円(幼・小・中学校初任者研修事業費6,579千円)</p>					
評価	指標／目標値等	指標(指標によっては算式／解説)	目標年度	目標値	実績値・見込	
		1	中堅教諭等資質向上研修(後期)における受講生の満足度	最終目標	95%	
				5年度	95%	95% (見込)
				4年度	95%	89% (実績)
		2	初任者研修における受講生の満足度	最終目標	95%	
				5年度	95%	95% (見込)
				4年度	95%	97% (実績)
		3	中堅教諭等資質向上研修(後期)対象教職員当たりコスト(中堅教諭等資質向上研修費決算額/対象教職員数)	最終目標	—	
				5年度	—	— (見込)
				4年度	—	959円 (実績)
	4	総合教育センター等・宿泊研修事業対象教職員当たりコスト(初任者研修費決算額/対象教職員数)	最終目標	—		
			5年度	—	— (見込)	
			4年度	—	4,154円 (実績)	
	5		最終目標			
			5年度		(見込)	
		4年度		(実績)		
外部要因等	なし					
目的の達成に関する評価	<p>C:相当程度進展あり(判断の理由)</p> <p>◎主要な指標:2(理由:教員の資質向上のための新規採用時の研修が重要)</p> <p>・主要な指標で目標を達成できたが、その他の指標で目標を達成できなかった。</p> <p>・東三河地区の研修を分離開催し、当該地区の研修参加者が公務に支障なく参加しやすくなることで、研修の満足度を高めるとともに、コストを削減した。</p>					
コスト指標の増減分析	<p>4年度の中堅教諭等資質向上研修(後期)対象教職員当たりコストは、対象人員が増加したが、事業費が減少したため、3年度1,045円に比べ86円減少した。</p> <p>4年度の総合教育センター等・宿泊研修事業対象教職員当たりコストは、事業費及び対象人員が増加したため、3年度3,270円に比べ884円増加した。</p>					
課題	<p>教員の資質向上のためには、受講生にとっての必要性に応じた体系的・総合的な研修を実施する必要があり、受講生の満足度を維持できるような研修を計画する必要がある。</p>					
今後の方向性	<p>研修内容の見直しを図り、より充実した研修を行うことが出来るよう、研修プログラムの改善を行っていく。</p> <p>研修内容を体系化し、県総合教育センターにおいて集中的に研修を実施しており、効率的に事業を実施していく。</p>					

*「決算額(C/F)」については、表示単位未満の金額を四捨五入しているため、「経費」の内訳の合計と「計」欄が一致しない場合があります。

令和 5年度 管理事業評価調書(5年度対象)

事業コード	6060	事業名	小中学校教育振興事業			
所属名	教育委員会事務局義務教育課	評価責任者	義務教育課長 水谷 政名			
		作成責任者	安井 靖弘	ダイヤルイン	052-954-6789	
政策名	児童生徒の健全育成と学習支援の充実		施策名	幼児教育・義務教育の一層の充実		
事業目的	幼児教育・義務教育における児童生徒の健全育成・学習支援の充実					
根拠法令・計画等	地方教育行政の組織及び運営に関する法律第18条3号、第48条					
従事人員・経費等	区分	予算額		決算額(C/F)		
		5年度(当初)	4年度(当初)	4年度	3年度	
	従事人員	正規職員(うち地方機関分)	10.40人(0人)	5.20人(0人)	5.20人(0人)	5.20人(0人)
		非常勤職員(うち地方機関分)	3人(0人)	3人(0人)	3人(0人)	3人(0人)
	経費	人件費(a)	816,349千円	729,657千円	985,750千円	733,403千円
		事業費(b)	736,361千円	589,196千円	510,907千円	396,820千円
		公債費(c)	0千円	0千円	0千円	0千円
		計(a)+(b)+(c)	1,552,710千円	1,318,853千円	1,496,658千円	1,130,223千円
	収入のうち、受益者負担額(分担金・負担金、使用料・手数料)		0千円	0千円	0千円	0千円
	経費のうち、一般財源等		1,005,188千円	861,228千円	557,549千円	777,951千円
事業計画の内容及び事業費の内訳	<p>幼児教育・義務教育の充実を図る。</p> <p>1 小・中学校教育指導振興費:1,415千円(道徳教育専用サイト運営費185千円)</p> <p>2 教育方法研究費:30,425千円(文部科学省調査研究費29,949千円) 3 ICT活用教育推進事業費:3,072千円</p> <p>4 教科用図書採択給与事務費:664千円(教科用図書選定審議会費664千円)</p> <p>5 人権教育推進事業費:2,558千円 6 へき地教育振興費補助金:1,400千円</p> <p>7 キャリア教育推進事業費:14,501千円 8 学校地域連携教育推進事業費:250千円</p> <p>9 児童生徒学習支援事業費:149千円 10 心豊かな児童生徒育成推進事業費:142,622千円(スクールソーシャルワーカー設置事業費補助金94,119千円) 11 外国人児童生徒教育推進事業費:6,121千円</p> <p>12 外国人児童生徒日本語教育支援事業費補助金:111,110千円 13 スクールロイヤー設置事業費:280千円</p> <p>14 部活動地域移行推進事業費:39,749千円 15 学習指導員配置事業費補助金:44,874千円</p> <p>16 スクール・サポート・スタッフ配置事業費補助金:265,187千円</p> <p>17 部活動指導員配置事業費補助金:71,984千円</p>					
評価	指標／目標値等	指標(指標によっては算式/解説)	目標年度	目標値	実績値・見込	
		1 深刻ないじめ事案の解消率	最終目標	100%		
			5年度	100%	100%	(見込)
			4年度	100%	100%	(実績)
		2 「学習意欲」で肯定的に答えた児童生徒の割合が全国平均を上回る項目数の割合	最終目標	50%以上		
			5年度	50%以上	20%	(見込)
			4年度	50%以上	20%	(実績)
		3 スクールソーシャルワーカーを配置支援する市町村数(政令市・中核市除く)	最終目標	前年度を上回る		
			5年度	前年度を上回る	42市町村	(見込)
			4年度	前年度を上回る(3年度:32)	39市町村	(実績)
		4 県民当たりコスト(PL経常費用/本県人口)	最終目標	-		
			5年度	-	-	(見込)
			4年度	-	199円	(実績)
		5 道徳教育推進総合サイト「モラルBOX」アクセス件数	最終目標	前年度を上回る		
			5年度	前年度を上回る	147,361件	(見込)
	4年度		前年度を上回る(3年度:212,643件)	147,361件	(実績)	
	外部要因等	なし				
	目的の達成に関する評価	<p>C:相当程度進展有り(判断の理由)</p> <p>◎主要な指標:3(理由:いじめ・不登校への対応が喫緊の課題であるため)</p> <p>・主要な指標については、目標を達成できたが、その他の指標の一部で目標を達成できなかった。</p> <p>・4年度の全国学力・学習状況調査における「学習意欲」で肯定的に答えた児童生徒の割合が全国平均を上回る項目数の割合について、授業改善を行ったが、目標を達成できなかった。</p> <p>・道徳教育推進総合サイト「モラルBOX」アクセス件数については、教科化から6年が経過し、実践が定着してきたものとみられ、目標を達成できなかった。</p>				
	コスト指標の増減分析	4年度の県民当たりコストは、スクールソーシャルワーカー設置事業費補助金や外国人児童生徒日本語教育支援事業費補助金等の事業費の増加等に伴い、3年度150円に比べ49円増加した。				
	課題	全国の不登校出現率と本県を比べると、依然として憂慮すべき状況にあることから、問題の未然防止のため、学校の相談体制作りをより一層進めていく必要がある。				
今後の方向性	小・中学校でのスクールカウンセラーの配置の拡充を図っていくとともに、小中連携を一層進める。また、増加する外国人児童生徒に対し、早期の日本語習得を図るため、きめ細かな支援を行う。					

*「決算額(C/F)」については、表示単位未満の金額を四捨五入しているため、「経費」の内訳の合計と「計」欄が一致しない場合があります。

令和 5年度 管理事業評価調書(5年度対象)

事業コード	6070	事業名	高等学校教育振興事業			
所属名	教育委員会事務局 高等学校教育課	評価責任者	高等学校教育課長 橋本 具征			
		作成責任者	奥田 将旭	ダイヤルイン	052-954-6826	
政策名	児童生徒の健全育成と学習支援の充実		施策名	高等学校生徒の学習指導と支援の充実		
事業目的	県立高等学校における教育の充実を図る。					
根拠法令・計画等	地方教育行政の組織及び運営に関する法律、産業教育振興法、高等学校等奨学金貸与条例、学校教育法等					
従事人員・経費等	区分	予算額		決算額(C/F)		
		5年度(当初)	4年度(当初)	4年度	3年度	
	従事人員	正規職員(うち地方機関分)	25.20人(0人)	26.10人(0人)	26.10人(0人)	21.10人(0人)
		非常勤職員(うち地方機関分)	4.40人(0人)	4.40人(0人)	4.40人(0人)	3.40人(0人)
	経費	人件費(a)	575,334千円	566,470千円	677,780千円	509,343千円
		事業費(b)	833,662千円	898,783千円	839,958千円	712,459千円
		公債費(c)	0千円	0千円	0千円	0千円
		計(a)+(b)+(c)	1,408,996千円	1,465,253千円	1,517,738千円	1,221,801千円
収入のうち、受益者負担額(分担金・負担金、使用料・手数料)		0千円	0千円	0千円	0千円	
経費のうち、一般財源等		1,246,501千円	1,308,474千円	1,283,535千円	1,103,318千円	
事業計画の内容及び事業費の内訳	<p>県立高等学校における教育の充実のため、外国人語学講師の配置をはじめとした英語教育の充実や、公立高等学校入学選抜を円滑に実施するために必要な経費の支出等を行う。</p> <p>1高等学校教育指導振興費:7,677千円(指導事務費5,561千円) 2県立高等学校再編将来構想推進事業費:31,017千円 3中高一貫教育導入費3,932千円 4教育方法研究費:20,416千円 5キャリア教育推進事業費:24,286千円 6高等学校男女共同参画推進事業費:3,591千円 7公設民営学校管理事業費:330,189千円 8あいちSTEAM教育推進事業費:6,264千円 9あいちグローバル人材育成事業費:71,423千円 10高等学校海外連携推進事業費:5,999千円 11道徳教育推進事業費:2,672千円 12東三河地域連携教育推進事業費:1,960千円 13心豊かな児童生徒育成推進事業費:16,310千円(ネット・バトル事業費 4,686千円) 14外国人生徒等支援員設置事業費:7,682千円(外国人生徒サポート事業費6,272千円) 15外国人生徒就労支援推進事業費:859千円 16外国人語学講師配置事業費:132,451千円(外国青年語学講師配置事業費131,365千円) 17スクールリーダー設置事業費:23千円 18部活動指導員配置事業費:1,678千円 19高等学校入学選抜費:164,435千円(入学選抜事務費146,819千円) 20高等学校定時制課程単位制教育指導費:798千円</p>					
評価	指標／目標値等	指標(指標によっては算式/解説)	目標年度	目標値	実績値・見込	
		1	指導主事学校訪問回数	最終目標	200回	
				5年度	200回	200回 (見込)
				4年度	200回	218回 (実績)
		2	スクールカウンセラー 配置校での相談支援件数	最終目標	10,800件	
				5年度	10,800件	10,800件 (見込)
				4年度	10,800件	12,032件 (実績)
		3	高大連携事業に応募した 高等学校の学校数(理数教育)	最終目標	50校以上	
				5年度	50校以上	50校 (見込)
				4年度	50校以上	68校 (実績)
		4	県民1人当たりコスト (PL経常費用/本県人口)	最終目標	-	
				5年度	-	- (見込)
				4年度	-	213円 (実績)
		5		最終目標		
				5年度		(見込)
4年度				(実績)		
外部要因等	高大接続改革(大学入試改革)に向けて、高校生の関心が高まっている。					
目的の達成に関する評価	<p>B:目標達成(判断の理由)</p> <p>◎主要な指標:1(理由:高校教育の充実には、指導主事による各学校への専門的指導が不可欠なため。)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・管理事業全体については、ほぼ順調に事業実施ができた。 ・指導主事による学校訪問は、新型コロナウイルスの感染拡大状況を見極めながら、学校への指導を適宜実施し、目標を上回る訪問回数となった。 ・スクールカウンセラーの相談件数は、目標件数以上の相談に対応することで、生徒の心のサポートの充実を図ることができた。 ・あいちSTEAM教育推進事業については、大学との連携を深めるとともに、これまで各学校で培ってきた高大連携に関する優れた取組とそのノウハウの普及を図ることで、目標どおり高大連携を実施する高校の割合を伸ばすことができた。 					
コスト指標の増減分析	4年度の県民1人当たりコストは、入学選抜事務費の増等により、3年度161円に比べ52円増加した。					
課題	新型コロナウイルスの感染拡大の影響等により、様々な不安やストレスを抱える生徒が増えている。					
今後の方向性	スクールカウンセラー及びスクールソーシャルワーカーについて、引き続き重篤化する相談事案に適切に対応していくとともに、配置した効果を検証し、今後一層の拡充に努めていく。					

*「決算額(C/F)」については、表示単位未満の金額を四捨五入しているため、「経費」の内訳の合計と「計」欄が一致しない場合があります。

令和 5年度 管理事業評価調書(5年度対象)

事業コード	6080	事業名	特別支援教育振興事業				
所属名	教育委員会事務局	評価責任者	特別支援教育課長 安楽 孝幸				
	教育部 特別支援教育課	作成責任者	安達 裕之	ダイヤルイン	052-954-6791		
政策名	児童生徒の健全育成と学習支援の充実		施策名	障害のある児童生徒の健全育成と自立支援			
事業目的	障害のある児童生徒に対し必要な支援体制を整備することで、健全育成と自立支援を図る。						
根拠法令・計画等	学校教育法 学習指導要領 第2期愛知県特別支援教育推進計画(平成30年12月)						
従事人員・経費等	区分	予算額		決算額(C/F)			
		5年度(当初)	4年度(当初)	4年度	3年度		
	従事人員	正規職員(うち地方機関分)	14.20人 (0人)	14.20人 (0人)	14.20人 (0人)	14.20人 (0人)	
		非常勤職員(うち地方機関分)	1人 (0人)	1人 (0人)	1人 (0人)	1人 (0人)	
	経費	人件費(a)	492,433 千円	436,631 千円	391,393 千円	303,407 千円	
		事業費(b)	33,211 千円	16,579 千円	12,851 千円	12,740 千円	
		公債費(c)	0 千円	0 千円	0 千円	0 千円	
		計(a)+(b)+(c)	525,644 千円	453,210 千円	404,244 千円	316,147 千円	
	収入のうち、受益者負担額(分担金・負担金、使用料・手数料)		0 千円	0 千円	0 千円	0 千円	
経費のうち、一般財源等		458,323 千円	403,355 千円	339,480 千円	268,612 千円		
事業計画の内容及び事業費の内訳	<p>特別支援学校等における特別支援教育の充実のため、障害のある幼児児童生徒の健全育成と自立支援を図る事業を行う。</p> <table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 50%; border: none;"> 1 体制推進事業費:2,176千円(研修事業費1,227千円) 2 特別支援教育指導推進費:535千円(指導主事活動費393千円) 3 特別支援教育推進計画策定費:890千円 4 特別支援教育事業推進費:210千円(体験入学推進費63千円) 5 教育支援委員会事業費:75千円 6 教育支援指導員配置事業費:411千円 7 医療的ケア推進事業費:7,279千円(指導医の派遣356千円) 8 通学支援等モデル事業費:11,148千円 9 入院児童生徒等への教育保障体制整備事業費:816千円 10 外部専門家活用事業費:3,468千円 11 ろう幼児教育相談費:540千円 </td> <td style="width: 50%; border: none;"> 12 指導員設置事業費:581千円 13 キャリア教育推進事業費:1,281千円 14 就労支援推進事業費:2,047千円 (就労アドバイザー活動経費1,153千円) 15 スクールカウンセラー設置費:119千円 16 スクールカウンセラー活動経費:459千円 17 スクールソーシャルワーカー設置費:96千円 18 スクールソーシャルワーカー活動経費:184千円 19 外国人児童生徒支援員設置事業費:896千円 (ICT機器整備費510千円) </td> </tr> </table>					1 体制推進事業費:2,176千円(研修事業費1,227千円) 2 特別支援教育指導推進費:535千円(指導主事活動費393千円) 3 特別支援教育推進計画策定費:890千円 4 特別支援教育事業推進費:210千円(体験入学推進費63千円) 5 教育支援委員会事業費:75千円 6 教育支援指導員配置事業費:411千円 7 医療的ケア推進事業費:7,279千円(指導医の派遣356千円) 8 通学支援等モデル事業費:11,148千円 9 入院児童生徒等への教育保障体制整備事業費:816千円 10 外部専門家活用事業費:3,468千円 11 ろう幼児教育相談費:540千円	12 指導員設置事業費:581千円 13 キャリア教育推進事業費:1,281千円 14 就労支援推進事業費:2,047千円 (就労アドバイザー活動経費1,153千円) 15 スクールカウンセラー設置費:119千円 16 スクールカウンセラー活動経費:459千円 17 スクールソーシャルワーカー設置費:96千円 18 スクールソーシャルワーカー活動経費:184千円 19 外国人児童生徒支援員設置事業費:896千円 (ICT機器整備費510千円)
1 体制推進事業費:2,176千円(研修事業費1,227千円) 2 特別支援教育指導推進費:535千円(指導主事活動費393千円) 3 特別支援教育推進計画策定費:890千円 4 特別支援教育事業推進費:210千円(体験入学推進費63千円) 5 教育支援委員会事業費:75千円 6 教育支援指導員配置事業費:411千円 7 医療的ケア推進事業費:7,279千円(指導医の派遣356千円) 8 通学支援等モデル事業費:11,148千円 9 入院児童生徒等への教育保障体制整備事業費:816千円 10 外部専門家活用事業費:3,468千円 11 ろう幼児教育相談費:540千円	12 指導員設置事業費:581千円 13 キャリア教育推進事業費:1,281千円 14 就労支援推進事業費:2,047千円 (就労アドバイザー活動経費1,153千円) 15 スクールカウンセラー設置費:119千円 16 スクールカウンセラー活動経費:459千円 17 スクールソーシャルワーカー設置費:96千円 18 スクールソーシャルワーカー活動経費:184千円 19 外国人児童生徒支援員設置事業費:896千円 (ICT機器整備費510千円)						
指標/目標値等	指標(指標によっては算式/解説)	最終目標	90%以上				
		5年度	90%以上	90%以上 (見込)			
		4年度	90%以上	98.40% (実績)			
		最終目標	100%				
		5年度	前年度を上回る	80%以上 (見込)			
		4年度	前年度を上回る	75.50% (実績)			
		最終目標	全11校				
		5年度	11校	11校 (見込)			
		4年度	11校	11校 (実績)			
		最終目標	50%以上				
		5年度	50%以上	50%以上 (見込)			
		4年度	50%以上	36.60% (実績)			
		最終目標	-				
		5年度	-	- (見込)			
		4年度	-	53円 (実績)			
外部要因等	特別支援学校及び特別支援学級に在籍する児童生徒、通級による指導を受けている児童生徒は増加を続けており、特別支援教育に対するニーズは年々高くなっている。また、就労について、30年4月から障害者の法定雇用率が引き上げられたものの、本県の特別支援学校高等部卒業生一般就労の就職率は、40%を下回る状況である。						
目的の達成に関する評価	<p>C:相当程度進展あり(判断の理由)</p> <p>◎主要な指標:2(理由:個別の教育支援計画は、障害のある児童生徒の支援情報を引き継ぐために必要な計画であり、引き継ぎによってよりよい連携を図る効果が大きいため)</p> <p>・5を除く4つの指標のうち3つで目標を達成したことから、管理事業全体としては相当程度の進展があったと判断した。</p> <p>・個別の教育支援計画の引き継ぎについては、本課が主催する会議や研修等において、繰り返しその必要性の周知を図っており、前年度の実績を上回ることができた。</p> <p>・特別支援学校高等部卒業生の一般就労の就職率は、特別支援学校における生徒の障害の重度化・重複化等により、高等部卒業生全体における就職率が低下傾向にあり、前年度の実績を下回る結果となった。</p>						
コスト指標の増減分析	4年度の県民一人当たりコストは、3年度41円に比べ、人件費の増加等により12円増加した。						
課題	<p>個別の教育支援計画の引き継ぎについては、特に通常の学級に在籍する特別な支援を必要とする生徒の引き継ぎ率の向上のため、引き続き学級担任への周知や保護者の啓発に取り組む必要がある。</p> <p>一般就労の就職率については、新型コロナウイルス感染症の拡大影響による特別支援学校高等部卒業生の一般就労の就職環境悪化は解消しつつあるが、在籍する生徒の障害の重度化・重複化が進んでいることから、就労アドバイザーを中心に企業や関係機関との連携強化及び情報共有等を行う必要がある。</p>						
今後の方向性	<p>公立中学校から高等学校への引き継ぎ率の向上のため、教員研修のテーマとして扱ったり、各種会議で具体策を話し合ったりして、支援情報を引き継ぐことの有効性の周知を図る。また、第2期愛知県特別支援教育推進計画の推進方針に基づき、保護者の理解を深めるために作成した保護者向けリーフレットを活用する。</p> <p>一般就労の就職率については、就労アドバイザー5人を継続配置し、引き続き一般就労の就職率の向上を図る。</p>						

*「決算額(C/F)」については、表示単位未満の金額を四捨五入しているため、「経費」の内訳の合計と「計」欄が一致しない場合があります。

令和 5年度 管理事業評価調書(5年度対象)

事業コード	6090	事業名	就学支援事業			
所属名	教育委員会事務局	評価責任者	高等学校教育課長 橋本 具征			
	高等学校教育課	作成責任者	山中 塔矢	ダイヤルイン	052-954-6785	
政策名	児童生徒の健全育成と学習支援の充実		施策名	児童生徒の就学の経済的支援		
事業目的	教育の機会均等を図るため、経済的な理由により修学が困難な者に対し援助を行う。					
根拠法令・計画等	愛知県高等学校等奨学金貸与条例、愛知県地域改善対策奨学資金貸与条例の廃止条例及び旧条例等					
従事人員・経費等	区分	予算額		決算額(C/F)		
		5年度(当初)	4年度(当初)	4年度	3年度	
	従事人員	正規職員(うち地方機関分)	8.40人(0人)	8.30人(0人)	8.30人(人)	8.30人(0人)
		非常勤職員(うち地方機関分)	2.60人(0人)	2.60人(0人)	2.60人(人)	3.60人(0人)
	経費	人件費(a)	189,693千円	185,222千円	131,200千円	137,582千円
		事業費(b)	12,656,767千円	12,992,808千円	11,925,242千円	12,173,655千円
		公債費(c)	0千円	0千円	0千円	0千円
		計(a)+(b)+(c)	12,846,460千円	13,178,030千円	12,056,442千円	12,311,237千円
収入のうち、受益者負担額(分担金・負担金、使用料・手数料)		0千円	0千円	0千円	0千円	
経費のうち、一般財源等		647,238千円	681,297千円	299,965千円	331,182千円	
事業計画の内容及び事業費の内訳	<p>経済的理由により高等学校等における修学が困難な者に対して、修学支援に必要な事業を実施する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 高等学校等奨学金貸付金:474,962千円(高等学校等奨学金貸付事業費437,100千円) 高等学校等進学奨励費:11,319千円(生涯学習助成費8,020千円) 高等学校定時制及び通信制課程教育推進費 修学資金貸付金:1,512千円(高等学校定時制及び通信制課程修学資金事業費1,512千円) 教科書・学習書給与費:4,665千円(教科書・学習書給与費4,665千円) 公立高等学校等奨学給付金支給費:1,380,094千円(公立高等学校等奨学給付金事業費1,380,094千円) 被災児童生徒修学支援等事業費補助金:1,579千円(被災児童生徒就学援助事業1,579千円) 公立高等学校等就学支援事業費:10,782,636千円(公立高等学校等就学支援事業費 10,782,636千円) 					
評価	指標／目標値等	指標(指標によっては算式/解説)	目標年度	目標値	実績値・見込	
		1	奨学金等事業対象基準に該当する者に対し、対象とした者の割合	最終目標		100%
			5年度	100%	100%	(見込)
			4年度	100%	100%	(実績)
		2	定時制通信制課程の勤労青少年への教科書・学習書の無償給与割合	最終目標		100%
			5年度	100%	100%	(見込)
			4年度	100%	100%	(実績)
		3	事業対象者当たりコスト(決算額/対象者数)	最終目標		-
			5年度	-	-	(見込)
			4年度	-	154,134円	(実績)
	4		最終目標			
		5年度			(見込)	
		4年度			(実績)	
	5		最終目標			
		5年度			(見込)	
4年度				(実績)		
外部要因等	奨学金貸付は一定の収入基準を満たす者が対象となるため、経済状況により対象者数は増減する。(4年度の奨学金貸与決定者は1,194人であり、3年度に比べ71人減となっている。)					
目的の達成に関する評価	<p>B:目標達成(判断の理由)</p> <p>◎主要な指標:1(理由:奨学金の貸付は就学支援事業の根幹をなすものであるため。)</p> <ul style="list-style-type: none"> 管理事業全体としては、順調に事業を実施することができた。 高等学校等奨学金貸付金については、迅速な審査業務の実施により、目標どおり対象基準該当者全員に貸付を実施することができた。 高等学校等進学奨励費については、迅速な審査業務の実施により、申請者全員に対し助成費の支給を実施することができた。 高等学校定時制及び通信制課程教育推進費については、迅速な審査業務の実施により、目標どおり対象者全員への教科書・学習書の無償給与を実施することができた。 公立高等学校等奨学給付金支給費については、迅速な審査業務等の実施により、申請者全員に対し、給付金の支給を実施することができた。 					
コスト指標の増減分析	4年度の事業対象者当たりコストは、物価高騰対策として公立高等学校等奨学給付金を一人当たり20,000円加算したことにより、3年度135,198円に比べ18,936円増加した。なお、高等学校等奨学金貸付金及び公立高等学校等奨学給付金における対象者数及び決算額は減少した。					
課題	奨学金貸与申請書について、必要事項の記入漏れや記入誤り、必要書類の添付漏れ等が多く見られ、審査業務に支障をきたしている。					
今後の方向性	奨学金の貸与申請は、在学する学校を経由して行われることから、各学校の担当者に対して、引き続き指導・助言等を行い、審査業務が円滑に実施できるよう努めていく。					

*「決算額(C/F)」については、表示単位未満の金額を四捨五入しているため、「経費」の内訳の合計と「計」欄が一致しない場合があります。

令和 5年度 管理事業評価調書(5年度対象)

事業コード	6100	事業名	恩給及び退職年金費			
所属名	教育委員会事務局福利課	評価責任者	福利課長 大谷 健二			
		作成責任者	出口 勝太	ダイヤルイン	052-954-6773	
政策名	教育行政の円滑な運営		施策名	恩給及び退職年金事務の適正な管理運営		
事業目的	恩給及び退職年金事務の適正な管理運営					
根拠法令・計画等	恩給法、公立学校教職員等の退職年金及び退職一時金に関する条例					
従事人員・経費等	区分	予算額		決算額(C/F)		
		5年度(当初)	4年度(当初)	4年度	3年度	
	従事人員	正規職員(うち地方機関分)	0.40人(0人)	0.40人(0人)	0.40人(0人)	0.40人(0人)
		非常勤職員(うち地方機関分)	0人(0人)	0人(0人)	0人(0人)	0人(0人)
	経費	人件費(a)	45,113千円	52,255千円	47,549千円	54,801千円
		事業費(b)	0千円	0千円	0千円	0千円
		公債費(c)	0千円	0千円	0千円	0千円
		計(a)+(b)+(c)	45,113千円	52,255千円	47,549千円	54,801千円
	収入のうち、受益者負担額(分担金・負担金、使用料・手数料)		0千円	0千円	0千円	0千円
経費のうち、一般財源等		45,113千円	52,255千円	47,537千円	54,801千円	
事業計画の内容及び事業費の内訳	恩給及び退職年金事務の適正な管理運営を行う。 1 恩給:34,975千円 2 退職年金:6,351千円					
評価	指標／目標値等	指標(指標によっては算式/解説)		目標年度	目標値	実績値・見込
		1	恩給の過誤払い件数	最終目標		0件
				5年度	0件	0件 (見込)
				4年度	0件	0件 (実績)
		2	扶助料(遺族年金)請求から裁定までの日数	最終目標		30日以内
				5年度	30日以内	30日以内 (見込)
				4年度	14日以内	8日 (実績)
		3	恩給・扶助料(遺族年金)受給者当たりのコスト(CF行政支出/受給者人数)	最終目標		-
				5年度	-	- (見込)
				4年度	-	1,159,738円 (実績)
	4		最終目標			
			5年度		(見込)	
			4年度		(実績)	
	5		最終目標			
			5年度		(見込)	
			4年度		(実績)	
	外部要因等	なし				
目的の達成に関する評価	B:目標達成(判断の理由) ◎主要な指標:1(理由:恩給及び退職年金事務の適正な管理運営に大きく関わるものであるため) ・管理事業全体として、主要な指標は目標を達成し、適切に事務を遂行することができた。					
コスト指標の増減分析	4年度の恩給・扶助料(遺族年金)受給者当たりのコストは、額の高い受給者の減等により、3年度1,191,326円に比べ31,588円減少した。					
課題	受理された未支給金の請求等について、迅速に支払い手続きを行う必要がある。					
今後の方向性	今後も恩給及び退職年金事務の適正な管理運営に努める。					

*「決算額(C/F)」については、表示単位未満の金額を四捨五入しているため、「経費」の内訳の合計と「計」欄が一致しない場合があります。

令和 5年度 管理事業評価調書(5年度対象)

事業コード	6110	事業名	総合教育センター管理運営事業			
所属名	教育委員会事務局総務課	評価責任者	総合教育センター所長 山脇 正成			
		作成責任者	牧原 ひとみ	ダイヤルイン	0561-38-2211	
政策名	教職員の資質向上		施策名	教員の資質向上のための事業実施と施設の維持管理		
事業目的	教育関係職員の研修、教育に関する調査・研究、資料の収集・提供及び教育相談等に関するを行うための総合教育センターの運営					
根拠法令・計画等	愛知県総合教育センター条例、教育公務員特例法、地方教育行政の組織及び運営に関する法律					
従事人員・経費等	区分	予算額		決算額(C/F)		
		5年度(当初)	4年度(当初)	4年度	3年度	
	従事人員	正規職員(うち地方機関分)	44人 (44人)	44人 (44人)	44人 (44人)	44人 (44人)
		非常勤職員(うち地方機関分)	19人 (19人)	19人 (19人)	19人 (19人)	19人 (19人)
	経費	人件費(a)	489,512 千円	502,736 千円	481,676 千円	481,863 千円
		事業費(b)	475,267 千円	375,197 千円	169,914 千円	113,201 千円
		公債費(c)	25,223 千円	25,169 千円	25,528 千円	25,792 千円
		計(a)+(b)+(c)	990,002 千円	903,102 千円	677,118 千円	620,856 千円
収入のうち、受益者負担額(分担金・負担金、使用料・手数料)		0 千円	0 千円	219 千円	213 千円	
経費のうち、一般財源等		989,936 千円	903,070 千円	672,927 千円	606,543 千円	
事業計画の内容及び事業費の内訳	<p>教育関係職員の研修、教育に関する調査・研究、資料の収集・提供及び教育相談等に関するを行うため、総合教育センターの管理・運営を行う。</p> <p>1 管理運営費:96,855千円(庁舎管理等費65,507千円、管理事務員設置費810千円、管理事務費30,538千円)</p> <p>2 研究事業費:4,984千円(研究調査・広報費379千円、愛知県教育史編さん事業費4,423千円 等)</p> <p>3 研修事業費:24,377千円(研修講座1,005千円、教員研修ICT化事業費10,614千円 等)</p> <p>4 相談事業費:946千円(一般教育相談782千円、コンサルテーション実施体制構築事業158千円 等)</p> <p>5 情報処理事業費:3,409千円(電子計算機システムリース料3,409千円)</p> <p>6 移転整備調査費:124,731千円</p> <p>7 施設設備整備費:219,965千円</p>					
評価	指標／目標値等	指標(指標によっては算式/解説)	目標年度	目標値	実績値・見込	
		1	研究成果の有用度(研究発表会参加者へのアンケート調査結果)	最終目標	85%	
				5年度	85%	85% (見込)
				4年度	85%	97% (実績)
		2	研修講座受講生の理解度・満足度(受講後のアンケート調査結果)	最終目標	85%	85%
				5年度	85%	85% (見込)
				4年度	85%	88% (実績)
		3	相談対応率(対応件数/相談件数)	最終目標	100%	100%
				5年度	100%	100% (見込)
				4年度	100%	100% (実績)
		4	事業対象者当たりコスト(PL経常費用/名古屋市立除く教員数及び児童生徒数)	最終目標	-	-
				5年度	-	- (見込)
				4年度	-	1,111円 (実績)
		5		最終目標		
				5年度		(見込)
4年度		(実績)				
外部要因等	団塊世代の大量退職、中堅職員の不足により、実践的なノウハウの継承が困難となっている中で、多様化・複雑化する教育課題に応えるための研究・研修に対するニーズが高まっている。					
目的の達成に関する評価	B: 目標達成 (判断の理由) ◎主要な指標:2(理由:施設利用者の大部分を研修講座受講生が占めるため。)・管理事業全体として、各事業を滞りなく行えるよう総合教育センターを円滑に運営することができた。・研究事業及び研修事業については、大学との連携により、効果的に事業を実施することができた。					
コスト指標の増減分析	4年度の事業対象者当たりコストは、主に経常費用のうち給与関係費の約67,000千円の増加が要因で、3年度の992円に比べ、119円増加した。					
課題	竣工から40年以上が経過し、老朽化が著しい庁舎設備の維持管理に努める必要がある。					
今後の方向性	今後も、研究成果の有用度、研修講座受講生の理解度・満足度の維持・向上に努めるとともに、各事業を円滑に実施できるよう施設の管理・運営を行っていく。					

*「決算額(C/F)」については、表示単位未満の金額を四捨五入しているため、「経費」の内訳の合計と「計」欄が一致しない場合があります。

令和 5年度 管理事業評価調書(5年度対象)

事業コード	6120	事業名	小学校教職員費			
所属名	教育委員会事務局財務施設課	評価責任者	財務施設課長 細井 徹			
		作成責任者	加藤 千晶	ダイヤルイン	052-954-6763	
政策名	教育行政の円滑な運営		施策名	円滑な小学校運営		
事業目的	本県公立小学校教職員定数の充実を進め、教育水準の向上を図る。					
根拠法令・計画等	公立義務教育諸学校の学級編制及び教職員定数の標準を定める法律、市町村立学校職員給与負担法第1条、義務教育費国庫負担法					
従事人員・経費等	区分	予算額		決算額(C/F)		
		5年度(当初)	4年度(当初)	4年度	3年度	
	従事人員	正規職員(うち地方機関分)	17,967人 (17,967人)	17,657人 (17,657人)	17,657人 (17,657人)	17,325人 (17,325人)
		非常勤職員(うち地方機関分)	714人 (714人)	878人 (878人)	878人 (878人)	1,144人 (1,144人)
	経費	人件費(a)	156,386,182 千円	160,405,594 千円	156,926,084 千円	154,699,432 千円
		事業費(b)	510,698 千円	505,621 千円	360,597 千円	285,338 千円
		公債費(c)	1,016,388 千円	1,024,328 千円	1,024,391 千円	1,032,652 千円
		計(a)+(b)+(c)	157,913,268 千円	161,935,543 千円	158,311,072 千円	156,017,422 千円
収入のうち、受益者負担額(分担金・負担金、使用料・手数料)		0 千円	0 千円	0 千円	0 千円	
経費のうち、一般財源等		119,873,739 千円	125,124,407 千円	121,008,507 千円	118,849,029 千円	
事業計画の内容及び事業費の内訳	小学校職員にかかる給与や報酬等を支給する。 1 旅費:424,088千円 2 初任者研修等参加旅費:25,202千円(初任者研修参加旅費18,460千円) 3 会計年度任用職員通勤手当相当旅費:61,408千円					
評価	指標／目標値等	指標(指標によっては算式/解説)		目標年度	目標値	実績値・見込
		1	児童一人当たりコスト(PL経常費用/児童数)	最終目標		-
				5年度	-	- (見込)
				4年度	-	540,461円 (実績)
		2		最終目標		
				5年度		(見込)
				4年度		(実績)
		3		最終目標		
				5年度		(見込)
				4年度		(実績)
		4		最終目標		
				5年度		(見込)
				4年度		(実績)
		5		最終目標		
				5年度		(見込)
4年度				(実績)		
外部要因等	なし					
目的の達成に関する評価	一:評価なし(コスト指標を唯一の指標としているため。)					
コスト指標の増減分析	4年度の児童一人当たりコストは、職員給与等の人件費の増により、3年度521,116円に比べ、19,345円増加した。					
課題	なし					
今後の方向性	引き続き、必要な人員及び所要額の確保に努め、適切な学校運営を行う。					

*「決算額(C/F)」については、表示単位未満の金額を四捨五入しているため、「経費」の内訳の合計と「計」欄が一致しない場合があります。

令和 5年度 管理事業評価調書(5年度対象)

事業コード	6130	事業名	中学校教職員費			
所属名	教育委員会事務局財務施設課	評価責任者	財務施設課長 細井 徹			
		作成責任者	加藤 千晶	ダイヤルイン	052-954-6763	
政策名	教育行政の円滑な運営		施策名	円滑な中学校運営		
事業目的	本県公立中学校教職員定数の充実を進め、教育水準の向上を図る。					
根拠法令・計画等	公立義務教育諸学校の学級編制及び教職員定数の標準に関する法律、市町村立学校職員給与負担法第1条、義務教育費国庫負担法					
従事人員・経費等	区分	予算額		決算額(C/F)		
		5年度(当初)	4年度(当初)	4年度	3年度	
	従事人員	正規職員(うち地方機関分)	10,126人 (10,126人)	10,044人 (10,044人)	10,044人 (10,044人)	9,958人 (9,958人)
		非常勤職員(うち地方機関分)	334人 (334人)	402人 (402人)	402人 (402人)	376人 (376人)
	経費	人件費(a)	88,286,306千円	91,436,324千円	87,698,399千円	86,641,888千円
		事業費(b)	526,763千円	524,678千円	410,549千円	325,279千円
		公債費(c)	420,336千円	421,532千円	421,577千円	422,688千円
		計(a)+(b)+(c)	89,233,405千円	92,382,534千円	88,530,525千円	87,389,855千円
	収入のうち、受益者負担額(分担金・負担金、使用料・手数料)	0千円	0千円	0千円	0千円	
	経費のうち、一般財源等	67,739,857千円	71,429,783千円	67,317,144千円	66,265,711千円	
事業計画の内容及び事業費の内訳	中学校教職員にかかる給与や報酬等を支給する。 1 旅費:466,467千円 2 初任者研修等参加旅費:11,951千円(初任者研修参加旅費7,865千円) 3 会計年度任用職員通勤手当相当旅費:48,345千円					
評価	指標／目標値等	指標(指標によっては算式/解説)	目標年度	目標値	実績値・見込	
		1 生徒一人当たりコスト(PL経常費用/生徒数)	最終目標		-	
			5年度	-	- (見込)	
			4年度	-	590,877円 (実績)	
		2	最終目標			
			5年度		(見込)	
			4年度		(実績)	
		3	最終目標			
			5年度		(見込)	
			4年度		(実績)	
		4	最終目標			
			5年度		(見込)	
			4年度		(実績)	
		5	最終目標			
			5年度		(見込)	
4年度			(実績)			
外部要因等	なし					
目的の達成に関する評価	一:評価なし(コスト指標を唯一の指標としているため。)					
コスト指標の増減分析	4年度の生徒一人当たりコストは、職員給与等の人件費の増により、3年度582,915円に比べ7,962円増加した。					
課題	なし					
今後の方向性	引き続き、必要な人員及び所要額の確保に努め、適切な学校運営を行う。					

*「決算額(C/F)」については、表示単位未満の金額を四捨五入しているため、「経費」の内訳の合計と「計」欄が一致しない場合があります。

令和 5年度 管理事業評価調書(5年度対象)

事業コード	6140	事業名	高等学校教職員費			
所属名	教育委員会事務局財務施設課	評価責任者	財務施設課長 細井 徹			
		作成責任者	餘野 圭右	ダイヤルイン	052-954-6263	
政策名	教育行政の円滑な運営		施策名	円滑な高等学校運営		
事業目的	国の教職員定数改善計画に沿って、本県の県立高等学校及び豊橋市立高等学校教職員定数の計画的な改善を進め、教育水準の向上を図る。					
根拠法令・計画等	公立高等学校の適正配置及び教職員定数の標準等に関する法律、地方財政法第9条、市町村立学校職員給与負担法第2条					
従事人員・経費等	区分	予算額		決算額(C/F)		
		5年度(当初)	4年度(当初)	4年度	3年度	
	従事人員	正規職員(うち地方機関分)	8,826人(8,826人)	8,820人(8,820人)	8,820人(8,820人)	8,889人(8,889人)
		非常勤職員(うち地方機関分)	436人(436人)	526人(526人)	526人(526人)	512人(512人)
	経費	人件費(a)	80,576,654千円	83,862,463千円	89,272,284千円	88,264,395千円
		事業費(b)	177,448千円	171,539千円	126,483千円	125,731千円
		公債費(c)	249,249千円	251,003千円	251,020千円	252,661千円
		計(a)+(b)+(c)	81,003,351千円	84,285,005千円	89,649,787千円	88,642,787千円
収入のうち、受益者負担額(分担金・負担金、使用料・手数料)		12,747,570千円	13,086,455千円	12,911,054千円	13,327,766千円	
経費のうち、一般財源等		68,027,368千円	70,966,239千円	76,377,495千円	75,069,962千円	
事業計画の内容及び事業費の内訳	高等学校教職員にかかる給与や報酬を支給する。 1 会計年度任用職員通勤手当相当旅費:177,448千円					
評価	指標／目標値等	指標(指標によっては算式/解説)	目標年度	目標値	実績値・見込	
		1 生徒一人当たりコスト(PL経常費用/生徒数)	最終目標		-	
			5年度	-	- (見込)	
			4年度	-	778,672円 (実績)	
		2	最終目標			
			5年度		(見込)	
			4年度		(実績)	
		3	最終目標			
			5年度		(見込)	
			4年度		(実績)	
		4	最終目標			
			5年度		(見込)	
			4年度		(実績)	
		5	最終目標			
			5年度		(見込)	
4年度			(実績)			
外部要因等	なし					
目的の達成に関する評価	-:評価なし(コスト指標を唯一の指標としているため。)					
コスト指標の増減分析	4年度の生徒一人当たりコストは、退職手当引当金繰入額等の増による人件費の増により、3年度750,549円に比べ、28,123円増加した。					
課題	なし					
今後の方向性	用務員の非常勤化や給食調理員業務委託化などの必要な見直しを行い、適切な学校運営に努めていく。					

*「決算額(C/F)」については、表示単位未満の金額を四捨五入しているため、「経費」の内訳の合計と「計」欄が一致しない場合があります。

令和 5年度 管理事業評価調書(5年度対象)

事業コード	6150	事業名	高等学校管理運営事業			
所属名	教育委員会事務局財務施設課	評価責任者	財務施設課長 細井 徹			
		作成責任者	池田 凌大	ダイヤルイン	052-954-6763	
政策名	教育行政の円滑な運営		施策名	円滑な高等学校の管理運営		
事業目的	県立高等学校に係る運営費を措置し、円滑な学校運営を図る。					
根拠法令・計画等	学校教育法第5条、地方財政法第9条					
従事人員・経費等	区分	予算額		決算額(C/F)		
		5年度(当初)	4年度(当初)	4年度	3年度	
	従事人員	正規職員(うち地方機関分)	2.70人(0人)	2.80人(0人)	2.80人(0人)	2.80人(0人)
		非常勤職員(うち地方機関分)	0人(0人)	0人(0人)	0人(0人)	0人(0人)
	経費	人件費(a)	55,874千円	61,164千円	57,778千円	62,841千円
		事業費(b)	6,739,704千円	5,260,456千円	6,140,073千円	5,259,339千円
		公債費(c)	6,292,917千円	6,387,850千円	6,898,217千円	6,488,164千円
		計(a)+(b)+(c)	13,088,495千円	11,709,470千円	13,096,068千円	11,810,344千円
収入のうち、受益者負担額(分担金・負担金、使用料・手数料)		63,268千円	63,268千円	86,489千円	62,698千円	
経費のうち、一般財源等		12,608,447千円	11,267,149千円	3,174,578千円	257,682千円	
事業計画の内容及び事業費の内訳	<p>県立高等学校の教育を推進するため、学校に維持、管理など県立高等学校に係る管理運営や施設設備の維持管理事業等を行う。</p> <p>1 全日制高等学校運営費:5,585,733千円(需用費:3,332,797千円)</p> <p>2 学校評議員設置推進事業費:2,172千円(報償費:2,112千円)</p> <p>3 教育情報通信ネットワーク運営費:8,143千円(役員費:6,843千円)</p> <p>4 初任者研修等参加旅費:9,292千円(旅費:9,292千円) 5 入試業務費:272千円(旅費:192千円)</p> <p>6 定時制高等学校運営費:350,877千円(委託料:199,995千円)</p> <p>7 通信制高等学校運営費:10,418千円(需用費:4,303千円)</p> <p>8 実習船運営費:135,593千円(需用費:60,231千円) 9 農業高校運営費:217,504千円(需用費:157,725千円)</p> <p>10 県立学校教育活動継続事業費:419,700千円(需用費:237,519千円)</p>					
評価	指標／目標値等	指標(指標によっては算式/解説)	目標年度	目標値	実績値・見込	
		1 生徒一人当たりコスト(PL経常費用/生徒数)	最終目標		-	
			5年度	-	- (見込)	
			4年度	-	103,866円 (実績)	
		2 学校評議員設置学校数	最終目標		全校での設置	
			5年度	150校	150校 (見込)	
			4年度	149校	149校 (実績)	
		3 授業中にICTを活用して指導ができる教員の割合	最終目標		前年度を上回る	
			5年度	前年度以上	前年度以上 (見込)	
			4年度	81.5%以上	82.50% (実績)	
		4	最終目標			
			5年度		(見込)	
			4年度		(実績)	
		5	最終目標			
			5年度		(見込)	
4年度			(実績)			
外部要因等	なし					
目的の達成に関する評価	<p>B:目標達成(判断の理由)</p> <p>◎主要な指標:2(理由:地域に開かれた学校づくりを推進し、地域との連携に資するため。)</p> <p>・学校評議員設置推進事業は、学校との連絡調整を密に図り、目標どおり全県立学校へ設置できた。</p>					
コスト指標の増減分析	4年度の生徒一人当たりコストは、光熱水費の高騰により、3年度の92,050円に比べ11,816円増加した。					
課題	学校評議員設置推進事業について、全県立学校への配置は完了しているが、今後は必要な人材の確保が重要である。					
今後の方向性	学校を取り巻く社会情勢及び地域ニーズの変化を捉え、必要な評議員の人選・人数が確保されるよう努める。					

*「決算額(C/F)」については、表示単位未満の金額を四捨五入しているため、「経費」の内訳の合計と「計」欄が一致しない場合があります。

令和 5年度 管理事業評価調書(5年度対象)

事業コード	6160	事業名	高等学校整備事業			
所属名	教育委員会事務局財務施設課	評価責任者	財務施設課長 細井 徹			
		作成責任者	後藤 愛実	ダイヤルイン	052-954-6764	
政策名	快適な学習環境づくりの実現		施策名	県立高等学校施設の整備		
事業目的	県立高等学校施設の適正な整備及び維持管理を行うことにより、生徒及び教職員の安全確保及び快適な学習環境を確保する。					
根拠法令・計画等	建築基準法、地方財政法、減価償却資産の耐用年数に関する省令、人にやさしい街づくりの推進に関する条例、愛知県公有財産規則、県立学校施設長寿命化計画					
従事人員・経費等	区 分	予算額		決算額(C/F)		
		5年度(当初)	4年度(当初)	4年度	3年度	
	従事人員	正規職員(うち地方機関分)	19.40人(0人)	20.40人(0人)	20.40人(0人)	20.40人(0人)
		非常勤職員(うち地方機関分)	0人(0人)	0人(0人)	0人(0人)	0人(0人)
	経費	人件費(a)	183,669 千円	201,231 千円	199,625 千円	198,296 千円
		事業費(b)	15,238,251 千円	13,043,647 千円	12,995,320 千円	15,280,323 千円
		公債費(c)	0 千円	0 千円	0 千円	0 千円
		計(a)+(b)+(c)	15,421,920 千円	13,244,878 千円	13,194,945 千円	15,478,619 千円
	収入のうち、受益者負担額(分担金・負担金、使用料・手数料)		0 千円	0 千円	0 千円	0 千円
	経費のうち、一般財源等		14,994,771 千円	12,933,878 千円	12,884,256 千円	12,460,786 千円
事業計画の内容及び事業費の内訳	<p>県立高等学校施設の大規模改修、設備改修などの工事、設計、監理及び県立高等学校の情報化を推進する事業を行っている。</p> <p>1 校舎整備費:964,535千円(城北つばさ高等学校整備費787,924千円、県立高等学校再編整備費164,518千円、東三河教育プロジェクト推進費12,093千円)</p> <p>2 環境整備費:535,205千円(県立学校PCB廃棄物処理費16,614千円、公共下水道接続費201,890千円、実習施設環境整備費316,701千円)</p> <p>3 維持修繕費:840,723千円(指導事務費等66,110千円、校舎等営繕費597,188千円、財産管理費809千円、給食施設改修費4,703千円、建物打診点検費171,913千円)</p> <p>4 県立学校施設長寿命化推進事業費:9,372,797千円(県立学校施設長寿命化推進事業費7,654,772千円、県立学校トイレ環境改善事業費1,718,025千円)</p> <p>5 津島地区新設高等学校整備費:15,777千円</p> <p>6 稲沢緑風館高等学校整備費:93,402千円</p> <p>7 実習船建造費:1,140,904千円</p> <p>8 産業教育設備整備費:101,583千円</p> <p>9 理科教育設備費:10,000千円</p> <p>10 情報化推進整備費:2,163,325千円(情報処理機器整備費1,398,164千円、県立学校校内情報ネットワーク整備費53,911千円、教育職員情報化推進整備費711,250千円)</p>					
指標／目標値等	指標(指標によっては算式/解説)	目標年度	目標値	実績値・見込		
	1	県立学校施設長寿命化推進事業費(対象棟に係る工事実施率)	最終目標	100%		
			5年度	34.20%	34.20%	(見込)
			4年度	26.10%	26.10%	(実績)
	2	生徒一人当たりコスト(PL経常費用/生徒数)	最終目標	-		
			5年度	-	-	(見込)
			4年度	-	93千円	(実績)
	3		最終目標			
			5年度			(見込)
			4年度			(実績)
	4		最終目標			
			5年度			(見込)
			4年度			(実績)
	5		最終目標			
			5年度			(見込)
4年度					(実績)	
外部要因等	なし					
評価	目的の達成に関する評価	<p>B:目標達成(判断の理由)</p> <p>◎主要な指標:1(理由:管理事業の中でも予算の多くを占める重要施策であるため)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・管理事業全体としては、順調に事業実施ができた。 ・校舎整備費については、労務費、資材費の増加はあったが、目標どおり工事及び設計を実施できた。 ・環境整備費については、労務費、資材費の増加はあったが、目標どおり工事及び設計を実施できた。 ・維持修繕費については、的確な執行残の把握及び再配分により、県立高等学校の維持管理を適切に実施できた。 ・県立学校施設長寿命化推進事業費については、労務費、資材費の増加はあったが、目標どおり工事及び設計を実施できた。 ・津島地区新設高等学校整備費については、労務費、資材費の増加はあったが、目標どおり設備整備を実施できた。 ・稲沢緑風館高等学校整備費については、予算の効率的な執行により、目標どおり設備整備を実施できた。 ・実習船建造費については、予算の効率的な執行により、目標どおり設備整備を実施できた。 ・産業教育設備整備費については、予算の効率的な執行により、目標どおり設備整備を実施できた。 ・理科教育設備費については、予算の効率的な執行により、目標どおり設備整備を実施できた。 ・情報化推進整備費については、予算の効率的な執行により、目標どおり設備整備を実施できた。 				
	コスト指標の増減分析	4年度の生徒一人当たりのコストについては、県立学校施設長寿命化推進事業費における工事請負費が増ったことにより、3年度85千円に比べ8千円増加した。				
	課題	学校施設の老朽化が進んでいるため、今後とも計画的に施設を整備していく必要がある。				
	今後の方向性	必要な見直しを行うなど、適切な事業の執行に努めていく。				

*「決算額(C/F)」については、表示単位未満の金額を四捨五入しているため、「経費」の内訳の合計と「計」欄が一致しない場合があります。

令和 5年度 管理事業評価調書(5年度対象)

事業コード	6165	事業名	中高一貫校整備事業費			
所属名	教育委員会事務局あいちの学び推進課中高一貫教育室	評価責任者	中高一貫教育室長 上田 真啓			
		作成責任者	牧 貴将	ダイヤルイン	052-954-7432	
政策名	快適な学習環境づくりの実現		施策名	併設中学校施設の整備		
事業目的	併設中学校施設の適切な整備及び維持管理を行うことにより、生徒及び教職員の安全確保及び快適な学習環境を確保する。					
根拠法令・計画等	建築基準法、地方財政法、減価償却資産の耐用年数に関する省令、人にやさしい街づくりの推進に関する条例、愛知県公有財産規則、県立学校施設長寿命化計画					
従事人員・経費等	区分	予算額		決算額(C/F)		
		5年度(当初)	4年度(当初)	4年度	3年度	
	従事人員	正規職員(うち地方機関分)	1.10人(0人)	0人(0人)	0人(0人)	0人(0人)
		非常勤職員(うち地方機関分)	0人(0人)	0人(0人)	0人(0人)	0人(0人)
	経費	人件費(a)	10,414千円	0千円	0千円	0千円
		事業費(b)	361,278千円	0千円	72,800千円	0千円
		公債費(c)	0千円	0千円	0千円	0千円
		計(a)+(b)+(c)	371,692千円	0千円	72,800千円	0千円
収入のうち、受益者負担額(分担金・負担金、使用料・手数料)		0千円	0千円	0千円	0千円	
経費のうち、一般財源等		371,692千円	0千円	72,800千円	0千円	
事業計画の内容及び事業費の内訳	<p>探究学習を重視するタイプの併設型中高一貫校の開校に向け、中学校校舎等を整備する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 半田高等学校併設中学校整備費:172,292千円 2 津島高等学校併設中学校整備費:59,579千円 3 刈谷高等学校併設中学校整備費:57,258千円 4 時習館高等学校併設中学校整備費:23,463千円 5 豊田西高等学校併設中学校整備費:23,848千円 6 西尾高等学校併設中学校整備費:24,838千円 					
評価	指標／目標値等	指標(指標によっては算式/解説)	目標年度	目標値	実績値・見込	
		1 県立学校施設長寿命化推進事業費(対象棟に係る工事実施率)	最終目標	設計完了		
			5年度	第一次導入校実施設計完了	第一次導入校実施設計完了(見込)	
			4年度	-	-(実績)	
		2 実施設計が完了した併設中学校の建設工事進捗率	最終目標	建設工事完了		
			5年度	-	-	(見込)
			4年度	-	-	(実績)
		3 県民当たりコスト(PL経常費用/本県人口)	最終目標	-		
			5年度	-	-	(見込)
			4年度	-	10円	(実績)
		4	最終目標			
			5年度			(見込)
			4年度			(実績)
		5	最終目標			
			5年度			(見込)
	4年度				(実績)	
	外部要因等	なし				
	目的の達成に関する評価	-:評価なし				
	コスト指標の増減分析	なし				
	課題	なし				
今後の方向性	併設型中学校の開校に向け、計画通り施設整備を進めていく。					

*「決算額(C/F)」については、表示単位未満の金額を四捨五入しているため、「経費」の内訳の合計と「計」欄が一致しない場合があります。

令和 5年度 管理事業評価調書(5年度対象)

事業コード	6170	事業名	特別支援学校教職員費			
所属名	教育委員会事務局財務施設課	評価責任者	財務施設課長 細井 徹			
		作成責任者	餘野 圭右	ダイヤルイン	052-954-6763	
政策名	教育行政の円滑な運営		施策名	円滑な特別支援学校運営		
事業目的	県立、豊橋市立、豊田市立、瀬戸市立及び刈谷市立特別支援学校教職員の計画的な改善を進め、教育水準の向上を図る。					
根拠法令・計画等	公立義務教育諸学校の学級編制及び教職員定数の標準に関する法律、公立高等学校の適正配置及び教職員定数の標準等に関する法律					
従事人員・経費等	区分	予算額		決算額(C/F)		
		5年度(当初)	4年度(当初)	4年度	3年度	
	従事人員	正規職員(うち地方機関分)	3,648人 (3,648人)	3,609人 (3,609人)	3,609人 (3,609人)	3,539人 (3,539人)
		非常勤職員(うち地方機関分)	166人 (166人)	179人 (179人)	179人 (179人)	151人 (151人)
	経費	人件費(a)	32,480,100 千円	33,427,314 千円	33,429,118 千円	32,551,741 千円
		事業費(b)	47,016 千円	44,043 千円	26,323 千円	26,723 千円
		公債費(c)	38,941 千円	39,116 千円	39,120 千円	39,286 千円
		計(a)+(b)+(c)	32,566,057 千円	33,510,473 千円	33,494,560 千円	32,617,750 千円
収入のうち、受益者負担額(分担金・負担金、使用料・手数料)		0 千円	0 千円	0 千円	0 千円	
経費のうち、一般財源等		27,904,258 千円	29,036,551 千円	29,044,146 千円	28,313,481 千円	
事業計画の内容及び事業費の内訳	特別支援学校教職員にかかる給与や報酬を支給する。 1 会計年度任用職員通勤手当相当旅費:47,016千円					
評価	指標／目標値等	指標(指標によっては算式／解説)	目標年度	目標値	実績値・見込	
		1 児童・生徒一人当たりコスト(P/L経常費用/児童生徒数)	最終目標		-	
			5年度	-	- (見込)	
			4年度	-	5,380,539円 (実績)	
		2	最終目標			
			5年度		(見込)	
			4年度		(実績)	
		3	最終目標			
			5年度		(見込)	
			4年度		(実績)	
		4	最終目標			
			5年度		(見込)	
			4年度		(実績)	
		5	最終目標			
			5年度		(見込)	
4年度			(実績)			
外部要因等	なし					
目的の達成に関する評価	- :評価なし(コスト指標を唯一の指標としているため。)					
コスト指標の増減分析	4年度の児童・生徒一人当たりコストは、職員給与等の人件費の増により、3年度5,226,838円に比べ153,701円増加した。					
課題	なし					
今後の方向性	必要な見直しを行い、適切な学校運営に努めていく。					

*「決算額(C/F)」については、表示単位未満の金額を四捨五入しているため、「経費」の内訳の合計と「計」欄が一致しない場合があります。

令和 5年度 管理事業評価調書(5年度対象)

事業コード	6180	事業名	特別支援学校管理運営事業			
所属名	教育委員会事務局財務施設課	評価責任者	財務施設課長 細井 徹			
		作成責任者	清水 美帆	ダイヤルイン	052-954-6763	
政策名	教育行政の円滑運営		施策名	円滑な特別支援学校の管理運営		
事業目的	県立特別支援学校に係る運営費並びに豊橋市立、豊田市立、瀬戸市立及び刈谷市立特別支援学校の運営に係る旅費を措置し、円滑な学校運営を図る。					
根拠法令・計画等	学校教育法第5条、地方財政法第9条、市町村立学校職員給与負担法第1条					
従事人員・経費等	区分	予算額		決算額(C/F)		
		5年度(当初)	4年度(当初)	4年度	3年度	
	従事人員	正規職員(うち地方機関分)	1.30人(0人)	1.30人(0人)	1.30人(0人)	1.30人(0人)
		非常勤職員(うち地方機関分)	0人(0人)	0人(0人)	0人(0人)	0人(0人)
	経費	人件費(a)	148,192千円	147,440千円	91,164千円	98,729千円
		事業費(b)	4,380,130千円	3,902,006千円	3,701,185千円	3,484,080千円
		公債費(c)	1,300,014千円	1,057,152千円	1,301,355千円	1,088,602千円
		計(a)+(b)+(c)	5,828,336千円	5,106,598千円	5,093,704千円	4,671,412千円
収入のうち、受益者負担額(分担金・負担金、使用料・手数料)		0千円	0千円	0千円	0千円	
経費のうち、一般財源等		5,092,717千円	4,422,759千円	884,349千円	△2,178,017千円	
事業計画の内容及び事業費の内訳	<p>障害のある幼児・児童・生徒に対する教育を推進するため、学校の維持・管理のほか、通学バス運行業務など県立特別支援学校に係る管理運営や施設設備の維持管理業務等を行う。</p> <p>1 盲ろう学校運営費 (1)学校運営費:262,997千円(委託料70,280千円) (2)学校評議員設置推進事業費:128千円 (3)教育情報ネットワーク運営費:333千円 (4)就学支援事業費:82,637千円(扶助費82,442千円) (5)初任者研修等参加旅費:384千円</p> <p>2 特別支援学校運営費 (1)学校運営費:3,348,505千円(使用料及び賃借料1,470,594千円) (2)学校評議員設置推進事業費:384千円 (3)教育情報ネットワーク運営費:1,295千円(役務費1,144千円) (4)就学支援事業費:555,759千円(扶助費554,954千円) (5)初任者研修等参加旅費:3,468千円</p> <p>3 県立学校教育活動継続事業費:124,240千円(需用費81,576千円)</p>					
評価	指標／目標値等	指標(指標によっては算式/解説)	目標年度	目標値	実績値・見込	
		1 児童・生徒一人当たりコスト(P/L経常費用/児童生徒数)	最終目標		-	
			5年度	-	- (見込)	
			4年度	-	857,263円 (実績)	
		2 学校評議員設置学校数	最終目標		全校での設置	
			5年度	32校	32校 (見込)	
			4年度	31校	31校 (実績)	
		3 授業中にICTを活用して指導ができる教員の割合	最終目標		前年度を上回る	
			5年度	前年度以上	前年度以上 (見込)	
			4年度	74.5%以上	74.50% (実績)	
	4	最終目標				
		5年度		(見込)		
		4年度		(実績)		
	5	最終目標				
		5年度		(見込)		
4年度			(実績)			
外部要因等	なし					
目的の達成に関する評価	B:目標達成(判断の理由) ◎主要な指標:2(理由:地域に開かれた学校づくりを推進し、地域との連携に資する施策であるため。) ・学校評議員設置推進事業については、学校との連絡調整を密に図り、目標どおり県立学校へ設置できた。					
コスト指標の増減分析	4年度の児童・生徒一人当たりコストは、光熱水費の高騰や新型コロナウイルス感染対策を徹底する取組などにより、3年度の784,795円に比べ72,468円増加した。					
課題	学校評議員設置推進事業について、全県立学校への配置は完了しているが、今後は必要な人材の確保が重要である。					
今後の方向性	引き続き全ての特別支援学校に学校評議員を設置し、学校運営の状況を周知し、地域や保護者の意見を取り入れることで、開かれた学校運営をめざしていく。					

*「決算額(C/F)」については、表示単位未満の金額を四捨五入しているため、「経費」の内訳の合計と「計」欄が一致しない場合があります。

令和 5年度 管理事業評価調書(5年度対象)

事業コード	6190	事業名	特別支援学校整備事業			
所属名	教育委員会事務局財務施設課	評価責任者	財務施設課長 細井 徹			
		作成責任者	後藤 愛実	ダイヤルイン	052-954-6764	
政策名	快適な学習環境づくりの実現		施策名	県立特別支援学校の施設の整備		
事業目的	県立特別支援学校施設の適正な整備及び維持管理を行うことにより、児童生徒及び教職員の安全確保及び快適な学習環境を確保する。					
根拠法令・計画等	建築基準法、地方財政法、減価償却資産の耐用年数に関する省令、人にやさしい街づくりの推進に関する条例、愛知県公有財産規則、県立学校施設長寿命化計画					
従事人員・経費等	区 分		予算額		決算額(C/F)	
			5年度(当初)	4年度(当初)	4年度	3年度
	従事人員	正規職員(うち地方機関分)	8.10人 (0人)	8.10人 (0人)	8.10人 (0人)	8.10人 (0人)
		非常勤職員(うち地方機関分)	0人 (0人)	0人 (0人)	0人 (0人)	0人 (0人)
	経費	人件費(a)	79,539千円	78,956千円	78,474千円	80,428千円
		事業費(b)	6,454,622千円	5,312,983千円	5,017,600千円	8,209,183千円
		公債費(c)	0千円	0千円	0千円	0千円
		計(a)+(b)+(c)	6,534,161千円	5,391,939千円	5,096,074千円	8,289,611千円
収入のうち、受益者負担額 (分担金・負担金、使用料・手数料)		0千円	0千円	0千円	0千円	
経費のうち、一般財源等		6,239,420千円	4,778,947千円	4,330,604千円	6,272,230千円	
事業計画の内容及び事業費の内訳	<p>県立特別支援学校施設の大規模改修、設備改修などの工事、設計、監理及び県立特別支援学校の情報化を推進する事業を行っている。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 校舎整備費:250,939千円(小牧特別支援学校整備費102,795千円、いなざわ特別支援学校整備費126,426千円、大規模修繕費21,718千円) 2 維持修繕費:122,950千円(校舎等営繕費89,822千円、財産管理費257千円、給食施設改修費16,214千円、教室環境緊急整備費3,160千円、建物打診点検費13,497千円) 3 県立学校施設長寿命化推進事業費:2,363,691千円(県立学校施設長寿命化推進事業費2,070,246千円、県立学校トイレ環境改善事業費293,445千円) 4 岡崎特別支援学校移転整備費:3,413,959千円(建築工事費3,307,955千円、建物取壊費20,504千円、監督事務費等85,500千円) 5 情報化推進整備費:303,083千円(情報化推進整備費45,605千円、県立学校校内情報ネットワーク整備費35,656千円、教育職員情報化推進整備費221,822千円) 					
評価	指標／目標値等	指標(指標によっては算式/解説)	目標年度	目標値	実績値・見込	
		1	県立学校施設長寿命化推進事業費(対象棟に係る工事実施率)	最終目標	100%	
				5年度	42.10%	42.10% (見込)
				4年度	33.10%	33.10% (実績)
		2	児童・生徒一人当たりコスト(PL経常費用/生徒数)	最終目標	—	— (見込)
				5年度	—	— (実績)
				4年度	—	386千円 (実績)
		3		最終目標		
				5年度		(見込)
				4年度		(実績)
		4		最終目標		
				5年度		(見込)
				4年度		(実績)
		5		最終目標		
				5年度		(見込)
4年度				(実績)		
外部要因等	なし					
目的の達成に関する評価	<p>B:目標達成 ◎主要な指標:1(理由:管理事業の中でも予算の多くを占める重要施策であるため。) ・管理事業全体としては、順調に事業実施ができた。 ・校舎整備費については、労務費、資材費の増加はあったが、目標どおり工事及び設計を実施できた。 ・維持修繕費については、的確な執行残の把握及び再配分により、県立特別支援学校の維持管理を実施できた。 ・県立学校施設長寿命化推進事業費については、労務費、資材費の増加はあったが、目標どおり工事及び設計を実施できた。 ・岡崎特別支援学校移転整備費については、目標どおりI期工事を実施できた。 ・情報化推進整備費については、予算の効率的な執行により、目標どおり設備整備を実施できた。</p>					
コスト指標の増減分析	4年度の児童・生徒一人当たりのコストは、にしお特別支援学校建設費における工事請負費が減となったことにより、3年度422千円に比べ、36千円減少した。					
課題	なし					
今後の方向性	必要な見直しを行うなど、適切な事業の執行に努めていく。					

*「決算額(C/F)」については、表示単位未満の金額を四捨五入しているため、「経費」の内訳の合計と「計」欄が一致しない場合があります。

令和 5年度 管理事業評価調書(5年度対象)

事業コード	6200	事業名	生涯学習振興事業			
所属名	教育委員会事務局あいちの学び推進課	評価責任者	あいちの学び推進課長 小野内 茂喜			
		作成責任者	吉田 倫子	ダイヤルイン	052-954-6781	
政策名	生涯学習社会の実現		施策名	生涯学習支援体制の充実及び文化に親しむ機会の提供		
事業目的	本県の生涯学習の振興の推進及び文化芸術の振興					
根拠法令・計画等	生涯学習の振興のための施策の推進体制等の整備に関する法律、愛知県生涯学習審議会条例、子どもの読書活動の推進に関する法律 等					
従事人員・経費等	区分	予算額		決算額(C/F)		
		5年度(当初)	4年度(当初)	4年度	3年度	
	従事人員	正規職員(うち地方機関分)	3.20人(0人)	3.40人(0人)	3.40人(0人)	3.40人(0人)
		非常勤職員(うち地方機関分)	2人(0人)	2人(0人)	2人(0人)	1人(0人)
	経費	人件費(a)	37,090千円	40,230千円	49,828千円	38,392千円
		事業費(b)	21,039千円	12,722千円	12,000千円	9,982千円
		公債費(c)	14,240千円	14,324千円	14,326千円	14,384千円
		計(a)+(b)+(c)	72,369千円	67,276千円	76,154千円	62,759千円
収入のうち、受益者負担額(分担金・負担金、使用料・手数料)		0千円	0千円	0千円	0千円	
経費のうち、一般財源等		72,353千円	67,268千円	76,073千円	62,731千円	
事業計画の内容及び事業費の内訳	<p>生涯学習関連施策を総合的かつ効果的に推進するため、推進体制の充実を図るとともに、学習情報・学習機会の提供、指導者の養成等の各種施策を実施する。また、文化芸術活動の振興や子供読書活動の推進を図るため、アートフェスタや高校生ビブリオバトル愛知県大会等を開催する。</p> <p>1 生涯学習審議会費:737千円(生涯学習推進計画策定費649千円)</p> <p>2 生涯学習推進事業費:16,155千円(生涯学習推進センター活動推進費1,002千円、生涯学習情報システム運営費6,046千円、リカレントフォーラム事業費841千円、生涯学習推進センター移転費8,266千円)</p> <p>3 生涯学習指導者研修費:121千円(生涯学習・社会教育担当者研修会費121千円)</p> <p>4 文化活動指導費:849千円(文化活動費826千円)</p> <p>5 児童生徒ふれあい文化活動推進事業費:3,177千円(アートフェスタ開催費3,177千円)</p>					
評価	指標／目標値等	指標(指標によっては算式／解説)	目標年度	目標値	実績値・見込	
		1	生涯学習情報システム「学びネットあいち」アクセス件数	最終目標	前年度件数以上	
				5年度	前年度を上回る	135,112件 (見込)
				4年度	128,002件以上	135,112件 (実績)
		2	大学等の高等教育機関における公開講座の開催数	最終目標	2,750講座以上	
				5年度	2,750講座	2,750講座 (見込)
				4年度	2,750講座	1,343講座 (実績)
		3	地域指導者の養成数	最終目標	毎年度60人以上	
				5年度	60人以上	60人 (見込)
				4年度	60人以上	143人 (実績)
		4	1か月に1冊も本を読まなかった高校生の割合(不読率)	最終目標	33%以下	
				5年度	前年度を下回る	46.9%を下回る (見込)
				4年度	43.9%を下回る	46.90% (実績)
		5	県民あたりコスト(PL経常経費/本県人口)	最終目標	-	
				5年度	-	- (見込)
4年度	-			8円 (実績)		
外部要因等	新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止対策として、イベント・講座の開催が中止または縮小された。また、学習者(県民)自身の自粛行動により学習情報の検索数も減少した。					
目的の達成に関する評価	<p>C:相当程度進展あり(判断の理由)</p> <p>◎主要な指標:1(理由:生涯学習推進の中心事業であるため)</p> <p>・主要な指標の達成率は105%であり、その他の指標で目標を達成していないものがあるものの、管理事業全体としては概ね目標を達成した。</p> <p>・生涯学習指導者研修事業については、オンライン参加も可とするなど参加者の利便性を上げたり、内容を精選したりするなどして目標を達成した。</p> <p>・文化活動指導事業については、子供読書活動推進大会(高校生ビブリオバトル)を開催して子供の読書活動の推進を図ったが、1か月に1冊も本を読まなかった高校生の割合で目標を達成することができなかった。</p>					
コスト指標の増減分析	4年度の県民あたりコストは、事業費の増等により、3年度6円に比べ2円増加した。					
課題	<p>・情報提供システムについて、県民の学習ニーズに応えるため、内容を一層充実したものとしていく必要がある。</p> <p>・新型コロナウイルス感染症の影響により公開講座の開設数が減少しているが、オンラインでの講座実施などを呼びかけていく必要がある。</p>					
今後の方向性	<p>・情報提供システムについて、学習情報を充実させるために情報提供機関の増加を図るとともに、システムの広報に努める。</p> <p>・指導者研修事業については、オンラインを有効に活用し、研修会を実施できるよう努めていく。</p>					

*「決算額(C/F)」については、表示単位未満の金額を四捨五入しているため、「経費」の内訳の合計と「計」欄が一致しない場合があります。

令和 5年度 管理事業評価調書(5年度対象)

事業コード	6210	事業名	社会教育振興事業			
所属名	教育委員会事務局あいちの学び推進課	評価責任者	あいちの学び推進課長 小野内 茂喜			
		作成責任者	後藤 将輝	ダイヤルイン	052-954-6780	
政策名	生涯学習社会の実現		施策名	社会教育推進体制の充実		
事業目的	社会教育に関する人材養成や環境整備を行い、社会教育の活性化を図る					
根拠法令・計画等	社会教育法第3条・第6条、教育基本法第10条、ユネスコ活動に関する法律第4条					
従事人員・経費等	区分	予算額		決算額(C/F)		
		5年度(当初)	4年度(当初)	4年度	3年度	
	従事人員	正規職員(うち地方機関分)	8人(2人)	8.30人(0人)	8.30人(0人)	8.30人(0人)
		非常勤職員(うち地方機関分)	0人(0人)	2人(0人)	2人(0人)	1人(0人)
	経費	人件費(a)	130,662千円	136,661千円	131,658千円	135,267千円
		事業費(b)	421,884千円	397,021千円	357,073千円	343,514千円
		公債費(c)	3,222千円	3,241千円	3,242千円	3,255千円
		計(a)+(b)+(c)	555,768千円	536,923千円	491,972千円	482,036千円
	収入のうち、受益者負担額(分担金・負担金、使用料・手数料)		0千円	0千円	0千円	0千円
	経費のうち、一般財源等		352,585千円	346,378千円	320,544千円	316,430千円
事業計画の内容及び事業費の内訳	<p>社会教育振興のため、指導者の養成、家庭教育の支援、学校・家庭・地域の連携、ユネスコスクールの交流促進を行う。</p> <p>1 社会教育振興費:2,233千円(社会教育指導者研修費101千円、社会教育指導費2,132千円)</p> <p>2 地域学校協働活動推進事業費:391,955千円(地域学校協働本部推進事業費20,343千円、放課後子ども教室推進事業費371,612千円)</p> <p>3 若者・外国人未来応援事業費:17,129千円(若者・外国人未来応援事業費17,129千円)</p> <p>4 女性教育振興費:218千円(女性団体活動促進費218千円)</p> <p>5 家庭教育振興費:7,455千円(家庭教育相談員設置事業費2,621千円)</p> <p>6 ユネスコスクール活性化事業費:2,894千円(ユネスコスクール活性化事業費2,734千円)</p>					
評価	指標／目標値等	指標(指標によっては算式/解説)	目標年度	目標値	実績値・見込	
		1	放課後や週末に地域住民による子どもの教育を行っている市町村数	最終目標	49市町村	
				5年度	49市町村	49市町村 (見込)
				4年度	49市町村	28市町村 (実績)
		2	研修会等参加者へのアンケート調査による事業の評価率	最終目標	100%	100%
				5年度	100%	100% (見込)
				4年度	100%	100% (実績)
		3	家庭教育相談を受けた児童生徒の好転率(好転:登校できる等)	最終目標	76%	76%
				5年度	76%	76% (見込)
				4年度	76%	87% (実績)
		4	「親の学び」学習プログラム活用講座の参加人数	最終目標	1,280人以上	1,280人
				5年度	1,280人	1,280人 (見込)
				4年度	1,280人	952人 (実績)
		5	県民あたりコスト(PL経常費用/本県人口)	最終目標	-	-
				5年度	-	- (見込)
4年度	-			66円 (実績)		
外部要因等	放課後子ども教室については、女性の社会進出促進により児童福祉法に基づいて設置される「放課後児童クラブ」の推進に重きを置く市町村が、放課後子ども教室より児童クラブを優先する事例がある。新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、放課後子ども教室の実施を一部中止した市町村がある。「親の学び」学習プログラム活用講座については、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から一部規模の縮小による開催となった。					
目的の達成に関する評価	<p>C:相当程度進展あり(判断の理由)</p> <p>◎主要な指標:3 (理由:問題を抱える家庭への支援が重要な社会的課題であるため)</p> <ul style="list-style-type: none"> 外部要因を除き、適切な事業実施により、管理事業全体としては概ね目標を達成した。 放課後子ども教室推進事業については、教室数は年々増加しているが、目標値を下回った。 職場内家庭教育研修事業については、全てアンケートを実施し、評価を行い、目標を達成した。 家庭教育相談事業については、訪問・相談活動により、目標を上回った。 「親の学び」学習プログラム活用講座である「親の育ち」家庭教育研修会の参加人数は、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から参加人数を制限して開催したため、目標を下回ったが、参加者から高く評価され、効果が大きかった。 					
コスト指標の増減分析	4年度の県民あたりコストは、事業費の増等により、3年度63円に比べ3円増加した。					
課題	・放課後子ども教室補助事業の実施要件であるコミュニティ・スクールが導入されていない小学校がある。					
今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> 放課後子ども教室又はそれに相当する事業の全小学校区実施を補助要件であるコミュニティ・スクールの導入とともに市町村に働きかける。 学習プログラム活用講座については、周知・啓発し、参加人数の増加に努める。 					

*「決算額(C/F)」については、表示単位未満の金額を四捨五入しているため、「経費」の内訳の合計と「計」欄が一致しない場合があります。

令和 5年度 管理事業評価調書(5年度対象)

事業コード	6220	事業名	社会教育・野外活動施設管理運営事業			
所属名	教育委員会事務局あいちの学び推進課	評価責任者	あいちの学び推進課長 小野内 茂喜			
		作成責任者	伊藤 優斗	ダイヤルイン	052-954-6781	
政策名	生涯学習社会の実現		施策名	社会教育・野外活動施設の適切な管理運営		
事業目的	社会教育・野外活動施設を運営し、青少年が自然に親しみ、集団宿泊生活を通じて、心身とも健全な青少年の育成を図る。					
根拠法令・計画等	社会教育法第6条、地方自治法第244条の2、愛知県スポーツ施設及び社会教育施設条例					
従事人員・経費等	区 分		予算額		決算額(C/F)	
			5年度(当初)	4年度(当初)	4年度	3年度
	従事人員	正規職員(うち地方機関分)	1.70人(0人)	1.70人(0人)	1.70人(0人)	1.70人(0人)
		非常勤職員(うち地方機関分)	0人(0人)	0人(0人)	0人(0人)	0人(0人)
	経費	人件費(a)	16,095千円	16,571千円	16,118千円	15,926千円
		事業費(b)	419,087千円	289,353千円	302,049千円	324,065千円
		公債費(c)	71,652千円	86,702千円	90,289千円	97,545千円
		計(a)+(b)+(c)	506,834千円	392,626千円	408,456千円	437,536千円
収入のうち、受益者負担額(分担金・負担金、使用料・手数料)		5,956千円	6,726千円	7,217千円	5,374千円	
経費のうち、一般財源等		500,878千円	385,900千円	388,604千円	304,782千円	
事業計画の内容及び事業費の内訳	<p>愛知県青年の家、美浜自然の家、旭高原自然の家及び野外教育センターの管理・運営を指定管理者に委託する。</p> <p>また、各施設の維持管理等に必要な整備を行う。</p> <p>1 社会教育・野外活動施設管理運営委託費:236,445千円 (青年の家30,337千円、美浜自然の家70,237千円、旭高原自然の家79,941千円、野外教育センター55,930千円)</p> <p>2 社会教育・野外活動施設整備費:182,642千円 (維持管理費121千円、修繕費8,593千円、簡易水道敷設工事分担金2,988千円、AED借上料115千円、無料公衆無線LAN運営費336千円、施設設備等更新費170,489千円)</p>					
評価	指標／目標値等	指標(指標によっては算式/解説)	目標年度	目標値	実績値・見込	
		1	宿泊利用率	最終目標	青年38.5% 美浜32.8% 旭高原25.4% 野外24.9%	
				5年度	青年38.5% 美浜32.8% 旭高原25.4% 野外24.9% (見込)	
				4年度	青年38.5% 美浜32.2% 旭高原25.4% 野外23.6% (実績)	
		2	指定管理者管理運営モニタリング調査における評価	最終目標	S	S (見込)
				5年度	S	A (実績)
				4年度	A	A (実績)
		3	施設利用者あたりコスト(PL経常費用/宿泊利用者数)	最終目標	-	- (見込)
				5年度	-	6,010円 (実績)
				4年度	-	6,010円 (実績)
		4		最終目標		(見込)
				5年度		(実績)
				4年度		(実績)
		5		最終目標		(見込)
				5年度		(実績)
4年度				(実績)		
外部要因等	新型コロナウイルス感染症拡大防止の影響により、宿泊等の利用キャンセルの発生や日帰り利用が増えている。					
目的の達成に関する評価	<p>D:進展が大きくない(判断の理由)</p> <p>◎主要な指標:1(理由:行政大綱に係る重点改革プログラムの項目の一つであるため。)</p> <p>・指定管理者と綿密な連絡調整を図るとともに、定期・日常的なモニタリングを行うことにより、管理事業全体としては、適正な管理運営を実施することができた。</p> <p>・宿泊利用率については、利用促進に向けた広報活動等を実施し利用率向上を図ったが、新型コロナウイルス感染症拡大防止に伴う予約キャンセルが発生したことや日帰り利用が増えたことなどにより、すべての施設(4施設)において目標を達成できなかった。</p>					
コスト指標の増減分析	4年度の施設利用者あたりコストは、宿泊利用者数の増加等により、3年度11,340円に比べて5,330円減少した。					
課題	各施設ともに、学校行事等が減少する10月から2月までは、宿泊利用者の少ない時期(閑散期)となるため、その解消が課題である。					
今後の方向性	各施設において計画している閑散期の利用促進策を実現させるため指定管理者と連携している。今後も、より密に連携を図り、全ての施設において目標とする宿泊利用率の達成を図る。					

*「決算額(C/F)」については、表示単位未満の金額を四捨五入しているため、「経費」の内訳の合計と「計」欄が一致しない場合があります。

令和 5年度 管理事業評価調書(5年度対象)

事業コード	6250	事業名	学校保健管理事業			
所属名	教育委員会事務局 保健体育課		評価責任者	保健体育課長 祖父江 達夫		
			作成責任者	加藤 大輝	ダイヤルイン	052-954-6793
政策名	児童生徒の健康安全の確保		施策名	児童生徒の健康の保持及び教職員の健康保持		
事業目的	児童生徒及び教職員の健康診断実施により、早期発見及び健康の保持増進を図る。また、学校保健担当者の理解を深め、指導力向上を図る。					
根拠法令・計画等	<ul style="list-style-type: none"> ・感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律 ・学校保健安全法 ・学校保健安全法施行規則 					
従事人員・経費等	区 分		予算額		決算額(C/F)	
			5年度(当初)	4年度(当初)	4年度	3年度
	従事人員	正規職員(うち地方機関分)	5.50人(0人)	5.50人(0人)	5.50人(0人)	5.50人(0人)
		非常勤職員(うち地方機関分)	0人(0人)	0人(0人)	0人(0人)	0人(0人)
	経費	人件費(a)	52,071千円	53,612千円	51,982千円	52,255千円
		事業費(b)	263,315千円	261,932千円	248,240千円	270,127千円
		公債費(c)	0千円	0千円	0千円	0千円
		計(a)+(b)+(c)	315,386千円	315,544千円	300,222千円	322,382千円
収入のうち、受益者負担額 (分担金・負担金、使用料・手数料)		0千円	0千円	0千円	0千円	
経費のうち、一般財源等		300,858千円	300,173千円	287,680千円	280,295千円	
事業計画の内容及び事業費の内訳	<p>児童生徒及び教職員の健康保持を図るための健康診断等に係る事業を行う。</p> <p>また、多様化・深刻化している児童生徒の心身の健康問題に対応するため、養護教諭等に対して研修を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 定期結核健康診断費:58,169千円(定期結核健康診断費58,169千円) 2 結核以外の健康診断費:178,097千円(結核以外の健康診断費178,097千円) 3 保健環境衛生管理指導費:27,049千円(教職員健康審査会費6,878千円) 					
評価	指標／目標値等	指標(指標によっては算式/解説)		目標年度	目標値	実績値・見込
				最終目標		100%
		1	教職員の健康診断受診率	5年度	100%	100% (見込)
				4年度	100%	96.00% (実績)
				最終目標		100%
		2	研修内容を「自らの実践に活用できる」とする教職員の割合	5年度	100%	99% (見込)
				4年度	100%	100% (実績)
				最終目標		50%以上
		3	健康診断異常なしの割合	5年度	45%	45% (見込)
				4年度	45%	31.96% (実績)
	最終目標				4	
	4	受講者アンケートによる評価	5年度	3.2以上	3.8 (見込)	
			4年度	3.2以上	3.8 (実績)	
			最終目標		—	
	5	生徒・教職員1人当たりコスト (PL経常費用/生徒・教職員数)	5年度	—	— (見込)	
4年度			—	2,345円 (実績)		
最終目標				—		
外部要因等	新型コロナウイルス感染症の影響により、一部の研修が縮小又は従来と異なるオンラインによる方法での開催となった。					
目的の達成に関する評価	<small>C:相当程度進展あり (判断の理由) ◎主要な指標:1(理由:学校保健管理事業は、そのほとんどが健康診断に係る事業費であるため) ・一部の指標で目的が達成されなかったが、管理事業全体としては、概ね目標に近い実績であった。 ・教職員の健康診断については、休職や育休で受診できない者を除き、概ね受診させることができた。 ・研修事業については、研修内容の充実により、参加者から高い評価を得ることができた。</small>					
コスト指標の増減分析	4年度の生徒・教職員1人当たりコストは、新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金による県立学校ワクチン接種促進業務を行った3年度(2,448円)に比べて103円減少した。					
課題	教職員の健康診断において、生活習慣病等について、診断結果とともに学校医から健康指導を行っているが、個人対応ということもあり、各自の更なる努力を促す必要がある。					
今後の方向性	児童生徒の心身の健康問題について、研修受講者が研修で得た知識を学校内で伝達できるよう、より一層研修内容を充実させるとともに、教職員各自について関心を持たせ、生活習慣の改善を図るよう啓発を行う。					

*「決算額(C/F)」については、表示単位未満の金額を四捨五入しているため、「経費」の内訳の合計と「計」欄が一致しない場合があります。

令和 5年度 管理事業評価調書(5年度対象)

事業コード	6260	事業名	学校安全指導事業			
所属名	教育委員会事務局 保健体育課		評価責任者	保健体育課長 祖父江 達夫		
			作成責任者	平林 志野	ダイヤルイン	052-954-6829
政策名	児童生徒の健康安全の確保			施策名	学校における安全の確保	
事業目的	児童生徒の安全意識の高揚と安全な態度を養う。					
根拠法令・計画等	学校保健安全法、独立行政法人日本スポーツ振興センター法					
従事人員・経費等	区 分		予算額		決算額(C/F)	
			5年度(当初)	4年度(当初)	4年度	3年度
	従事人員	正規職員(うち地方機関分)	3.30人(0人)	3.30人(0人)	3.30人(0人)	3.30人(0人)
		非常勤職員(うち地方機関分)	2人(0人)	2人(0人)	2人(0人)	2人(0人)
	経費	人件費(a)	37,580千円	38,612千円	38,307千円	38,557千円
		事業費(b)	257,551千円	260,911千円	251,749千円	257,585千円
		公債費(c)	0千円	0千円	0千円	0千円
		計(a)+(b)+(c)	295,131千円	299,523千円	290,055千円	296,142千円
収入のうち、受益者負担額 (分担金・負担金、使用料・手数料)		0千円	0千円	0千円	0千円	
経費のうち、一般財源等		75,869千円	76,269千円	74,268千円	75,217千円	
事業計画の内容及び事業費の内訳	<p>児童生徒の安全・安心のため、交通安全・生活安全教育や防災教育関連の取組を行う。 また、教職員の学校安全に関する研修を行う。</p> <p>1 安全教育指導費:14,208千円(学校安全対策機器設置費8,349千円、学校安全総合支援事業費3,527千円) 2 日本スポーツ振興センター共済掛金・負担金:243,343千円 (日本スポーツセンター共済掛金・負担金243,343千円)</p>					
評価	指標／目標値等	指標(指標によっては算式／解説)		目標年度	目標値	実績値・見込
		1	学校管理下の重大事故件数	最終目標	前年度以下	
				5年度	120件	93件 (見込)
		4年度	105件	117件 (実績)		
		2	県立学校における交通安全指導の実施率	最終目標	100%	
				5年度	100%	100% (見込)
		4年度	100%	100% (実績)		
		3	事業対象者当たりコスト (PL経常費用／事業対象者)	最終目標	-	
				5年度	-	- (見込)
		4年度	-	523円 (実績)		
	4		最終目標			
			5年度		(見込)	
	4年度		(実績)			
	5		最終目標			
			5年度		(見込)	
4年度		(実績)				
外部要因等	なし。					
目的の達成に関する評価	<p>C:相当程度進展あり (判断の理由) ◎主要な指標:1(理由:児童生徒に安心・安全な教育を受けさせるために、学校管理下における重大事故を発生させないようにするため) ・一部の指標で目的が達成されなかったが、管理事業全体としては、概ね目標に近い実績であった。 ・児童生徒の安全を確保するための事業を推進してきたが、猛暑により熱中症の件数が増え、4年度の学校管理下における重大事故発生件数は目標値を上回る結果となった。5年度は、4年度に熱中症が多く発生したことや新型コロナウイルスが2類から5類へ移行し部活等の大会の開催も増えたことに伴い、熱中症対策の注意喚起を促す通知文を发出するなど対応を強化したことなどにより、重大事故件数は目標値の範囲内となる見込みである。</p>					
コスト指標の増減分析	4年度の事業対象者あたりコストは、日本スポーツ振興センター共済の加入児童生徒数減等により、3年度(526円)に比べて3円減少した。					
課題	学校安全教育や安全管理に関する各種研修会の開催、文書の発出等の啓発活動等を実施しているが、学校管理下における事故を更に減らしていくため、学校安全体制の推進をより一層図る必要がある。また、児童生徒が危険を予測し、回避する能力を育てていく必要性も大きい。					
今後の方向性	児童生徒に、事件・事故や災害からの危機回避能力を身に付けさせるとともに、教職員の指導力の一層の向上を図り、安全学習と安全指導の両面から安全教育の充実を目指す。					

*「決算額(C/F)」については、表示単位未満の金額を四捨五入しているため、「経費」の内訳の合計と「計」欄が一致しない場合があります。

令和 5年度 管理事業評価調書(5年度対象)

事業コード	6270	事業名	学校給食振興事業			
所属名	教育委員会事務局 保健体育課	評価責任者	保健体育課長 祖父江 達夫			
		作成責任者	春田 直之	ダイヤルイン	052-954-6839	
政策名	児童生徒の健康安全の確保		施策名	学校給食の衛生確保		
事業目的	学校給食の衛生管理に万全を期し、円滑に実施することにより、児童生徒の心身の健全な発達に資する。					
根拠法令・計画等	学校給食法(昭和29年法律第160号)、夜間課程を置く高等学校における学校給食に関する法律 他					
従事人員・経費等	区 分		予算額		決算額(C/F)	
			5年度(当初)	4年度(当初)	4年度	3年度
	従事人員	正規職員(うち地方機関分)	4.40人(0人)	4.40人(0人)	4.40人(0人)	4.40人(0人)
		非常勤職員(うち地方機関分)	0人(0人)	0人(0人)	0人(0人)	0人(0人)
	経費	人件費(a)	41,657千円	42,889千円	42,070千円	42,466千円
		事業費(b)	13,570千円	14,939千円	54,823千円	9,975千円
		公債費(c)	0千円	0千円	0千円	0千円
		計(a)+(b)+(c)	55,227千円	57,828千円	96,893千円	52,440千円
収入のうち、受益者負担額 (分担金・負担金、使用料・手数料)		0千円	0千円	0千円	0千円	
経費のうち、一般財源等		55,227千円	57,828千円	45,456千円	46,192千円	
事業計画の内容及び事業費の内訳	<p>児童生徒に対して、安全・安心な学校給食の実施・普及・支援を行う。</p> <p>また、学校における食育推進のための取組を行うとともに、栄養教諭等に対して研修を行う。</p> <p>1 給食指導管理費:9,944千円(学校給食防疫費8,875千円)</p> <p>2 学校給食物資検査委託費:3,626千円(学校給食物資検査委託費3,626千円)</p>					
評価	指標／目標値等	指標(指標によっては算式/解説)		目標年度	目標値	実績値・見込
		1	学校給食における食中毒の発生件数	最終目標		0件
				5年度	0件	0件 (見込)
				4年度	0件	0件 (実績)
		2	朝食に野菜を食べている小中学生の割合	最終目標		80%以上
				5年度	80%以上	80%以上 (見込)
				4年度	80%以上	61.50% (実績)
		3	学校給食を教材として活用した食に関する指導の好事例	最終目標		好事例の創出
				5年度	好事例の創出	好事例の創出 (見込)
				4年度	好事例の創出	豊田市における事例等 (実績)
	4	食育推進委員会の設置率	最終目標		100%	
			5年度	80%	80% (見込)	
			4年度	75%	80.40% (実績)	
	5	給食実施人数1人当たりのコスト(PL経常費用/給食実施人数)	最終目標		—	
			5年度	—	— (見込)	
4年度			—	159円 (実績)		
外部要因等	新型コロナウイルス感染症の影響により、一部啓発活動や研修は縮小されている。ただ、次第にコロナ禍以前の状況に戻つつある。					
目的の達成に関する評価	<p>C:相当程度進展あり(判断の理由)</p> <p>◎主要な指標:1(理由:安全で安心な学校給食の提供が児童生徒の健康安全の確保となるため)</p> <p>・学校給食関係者への研修の実施や学校給食食用物資の安全性確保により衛生管理を徹底するとともに、食育に関する研修の充実により学校での食育推進体制の整備が進み、管理事業全体としては、児童生徒の健康安全の確保はほぼ達成した。</p> <p>・朝食に野菜を食べている小中学生の割合については、目標は達成されなかったものの、啓発や研修の効果もあり、前年度とほぼ同数値である。</p>					
コスト指標の増減分析	4年度の給食実施人数1人当たりのコストは、新型コロナウイルス感染症の影響による県立学校給食費の負担を軽減する新規事業が開始されたことにより、3年度(82円)に比べ77円増加した。					
課題	子どもたちが生涯にわたり心身の健康を保つため、望ましい食習慣を身に付けていく上で家庭との連携が不可欠であり、保護者の意識を改革し、行動を変容させることが必要であるが、現在の社会情勢において親の就労状況や家族形態などから難しいという課題がある。					
今後の方向性	安全で安心な学校給食が提供できるよう衛生管理に万全を期していくとともに、学校・家庭・地域と連携した食育を推進し、児童生徒の健康安全を確保していく。					

*「決算額(C/F)」については、表示単位未満の金額を四捨五入しているため、「経費」の内訳の合計と「計」欄が一致しない場合があります。

令和 5年度 管理事業評価調書(5年度対象)

事業コード	6280	事業名	学校体育振興事業			
所属名	教育委員会事務局 保健体育課	評価責任者	保健体育課長 祖父江 達夫			
		作成責任者	松浦 高志	ダイヤルイン	052-954-6825	
政策名	児童生徒の健全育成と学習支援の充実		施策名	児童・生徒の体力の向上		
事業目的	実技講習会等を開催し、体育担当教員の運動指導力の向上を図る。 また、中高生のたくましい体力、気力の育成と技能向上を目指す。					
根拠法令・計画等	スポーツ基本法第17、34条、教育公務員特例法、 体育振興費補助金交付要綱、いさいきあいち スポーツプラン					
従事人員・経費等	区分	予算額		決算額(C/F)		
		5年度(当初)	4年度(当初)	4年度	3年度	
	従事人員	正規職員(うち地方機関分)	4.40人(0人)	4.40人(0人)	4.40人(0人)	4.40人(0人)
		非常勤職員(うち地方機関分)	1人(0人)	1人(0人)	1人(0人)	1人(0人)
	経費	人件費(a)	44,887千円	46,188千円	45,249千円	45,583千円
		事業費(b)	15,263千円	13,368千円	9,671千円	22,038千円
		公債費(c)	0千円	0千円	0千円	0千円
		計(a)+(b)+(c)	60,150千円	59,556千円	54,920千円	67,621千円
収入のうち、受益者負担額 (分担金・負担金、使用料・手数料)		1,738千円	858千円	847千円	690千円	
経費のうち、一般財源等		56,720千円	57,006千円	51,033千円	64,470千円	
事業計画の内容及び事業費の内訳	<p>学校における体育教育の充実や児童生徒の体力向上のため指導者の派遣などにより体力の向上を図る。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 学校体育指導費:666千円(指導事務費等666千円) 2 学校体育実技指導事業費:2,584千円 (実技講習会費等892千円、令和の日本型学校体育構築支援事業1,692千円) 3 学校体育大会負担金:1,950千円(東海中学校総合体育大会負担金等1,950千円) 4 学校体育連盟補助金:298千円 5 体力づくり推進事業費:5,423千円(体力づくり推進事業費2,110千円、子供の体力向上推進費1,418千円、子供の体力傾向分析指導費1,895千円) 6 県立学校スポーツ開放運営事業費:4,342千円(運営委託費2,461千円、施設維持補修費等1,881千円) 					
評価	指標／目標値等	指標(指標によっては算式/解説)	目標年度	目標値	実績値・見込	
		1	学校体育担当者研修会 出席者の理解度	最終目標	90%以上	
				5年度	90%以上	90%以上 (見込)
				4年度	90%以上	98% (実績)
		2	学校体育実技講習会 出席者の理解度	最終目標	90%以上	90%以上 (見込)
				5年度	90%以上	90%以上 (見込)
				4年度	90%以上	- (開催中止) (実績)
		3	小・中学校における 体力章交付率	最終目標	14.50%	
				5年度	13%以上	13%以上 (見込)
				4年度	13%以上	14.90% (実績)
		4	県民当たりコスト (PL経常費用/本県人口)	最終目標	-	-
				5年度	-	- (見込)
				4年度	-	7円 (実績)
		5		最終目標		
				5年度		(見込)
4年度				(実績)		
外部要因等	令和4年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により、実技を伴う講習会は中止とした。					
目的の達成に関する評価	<p>C:相当程度進展あり (判断の理由) ◎主要な指標:1(理由:全県からの参加者を対象に重点施策や事業を説明する会議であるため) ・学校体育担当者研修会の理解度は目標値を達成することができた。また、新型コロナウイルス感染症の影響を受けながらも、体力章の交付率についても目標値を達成することができた。 ・学校体育実技講習会については、新型コロナウイルス感染症の影響により実施することができなかったため、評価することができない。</p>					
コスト指標の増減分析	4年度県民当たりコストは、子供の体力向上を目的としたウェブサイト「あいち体育のページ」の開発が完了したことにより、3年度(10円)に比べて3円減少した。					
課題	「令和4年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査」における児童生徒の意識調査の結果において、令和元年度から連続して小・中学校の体力合計点が男女ともに低下している。児童生徒が体力向上に向けて、自ら進んで運動やスポーツに親しみ、心身ともに活力ある成長を果たせるような施策を実施していく必要がある。					
今後の方向性	令和3年度に作成した子供の体力向上を目的としたウェブサイト「あいち体育のページ」を活用し、教職員や児童生徒に向けて、学校だけでなく、家庭や地域でも活用できる「新体力向上運動プログラム」を始めとした体力向上に資する情報を発信することにより、児童生徒の体力向上を図る。					

*「決算額(C/F)」については、表示単位未満の金額を四捨五入しているため、「経費」の内訳の合計と「計」欄が一致しない場合があります。